

第19回神奈川県美術展

●会場／神奈川県民ギャラリー ●主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県



●1期展／工芸・書・写真〈S. 59年1月25日(水)→2月5日(日)〉 ●2期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形〈59年2月8日(水)→2月19日(日)〉 ●松田展 (S. 59年3月2日(金)→3月13日(火) ●会場／松田町民文化センター) ●主催／松田町・神奈川県美術展委員会・神奈川県

第19回神奈川県美術展

1 期展／工芸・書・写真

昭和59年1月25日(水)→2月5日(日)

2 期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和59年2月8日(水)→2月19日(日)

会場／神奈川県民ギャラリー

主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県

ごあいさつ

神奈川県美術展は、県内最大の公募展として、昭和40年より開催し、本年で第19回を迎えました。

その間、県内の若手作家の育成や文化の発展を願って微力ながらお手伝いしてまいりました。

お陰様で、本展には時代を先取りするような実験的な企てがなされたり、様々な意欲的な作品が寄せられております。主催者としては喜ばしい限りです。

さて、来年度は本展も第20回を迎えますが、これを記念して作品を全国から公募いたします。

今から期待に胸ふくらむ思いではありますが、これを成功させるためにも皆様方の暖かい御支援が必要です。

どうぞよろしくお願いいたします。

今回の展覧会開催にあたっては、審査員の皆様をはじめ関係者の方々には大変御世話になりました。

心よりお礼申し上げます。

昭和59年1月

神奈川県美術展委員会
委員長 上 野 豊

■ 日本画

■ 洋画

■ 版画

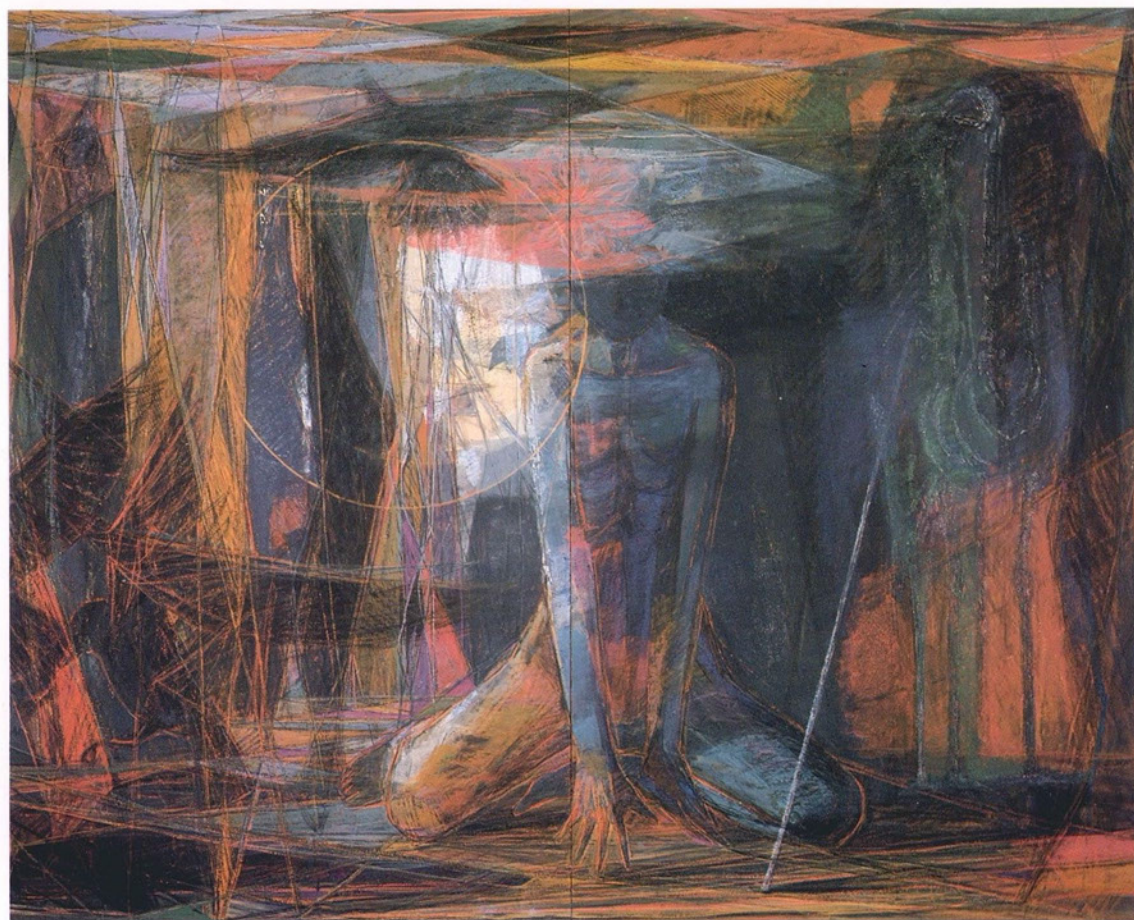
■ 彫刻

■ 立体造形

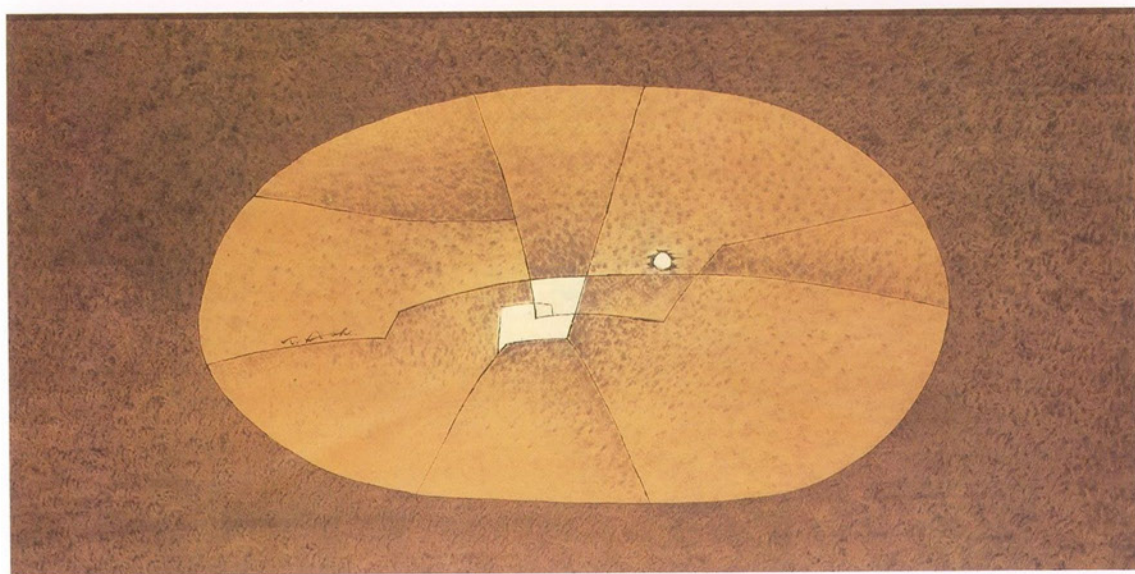
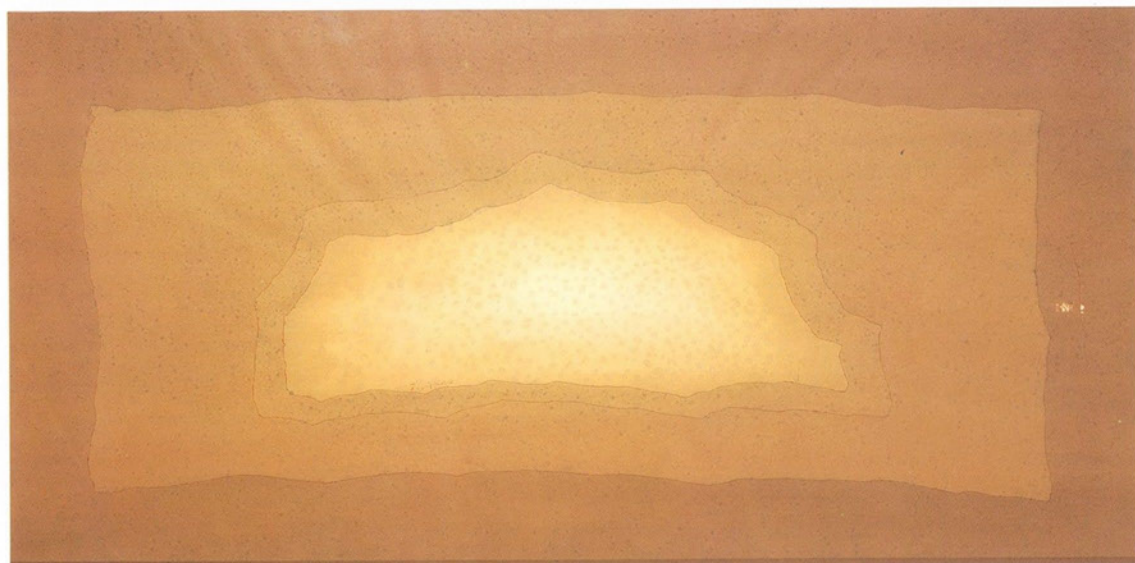
2期展・S59年2月8日→2月19日



大賞 ■ 井上 麦 土の系譜 (彫刻)



準大賞 ■ 柳沢正人 風化（日本画）



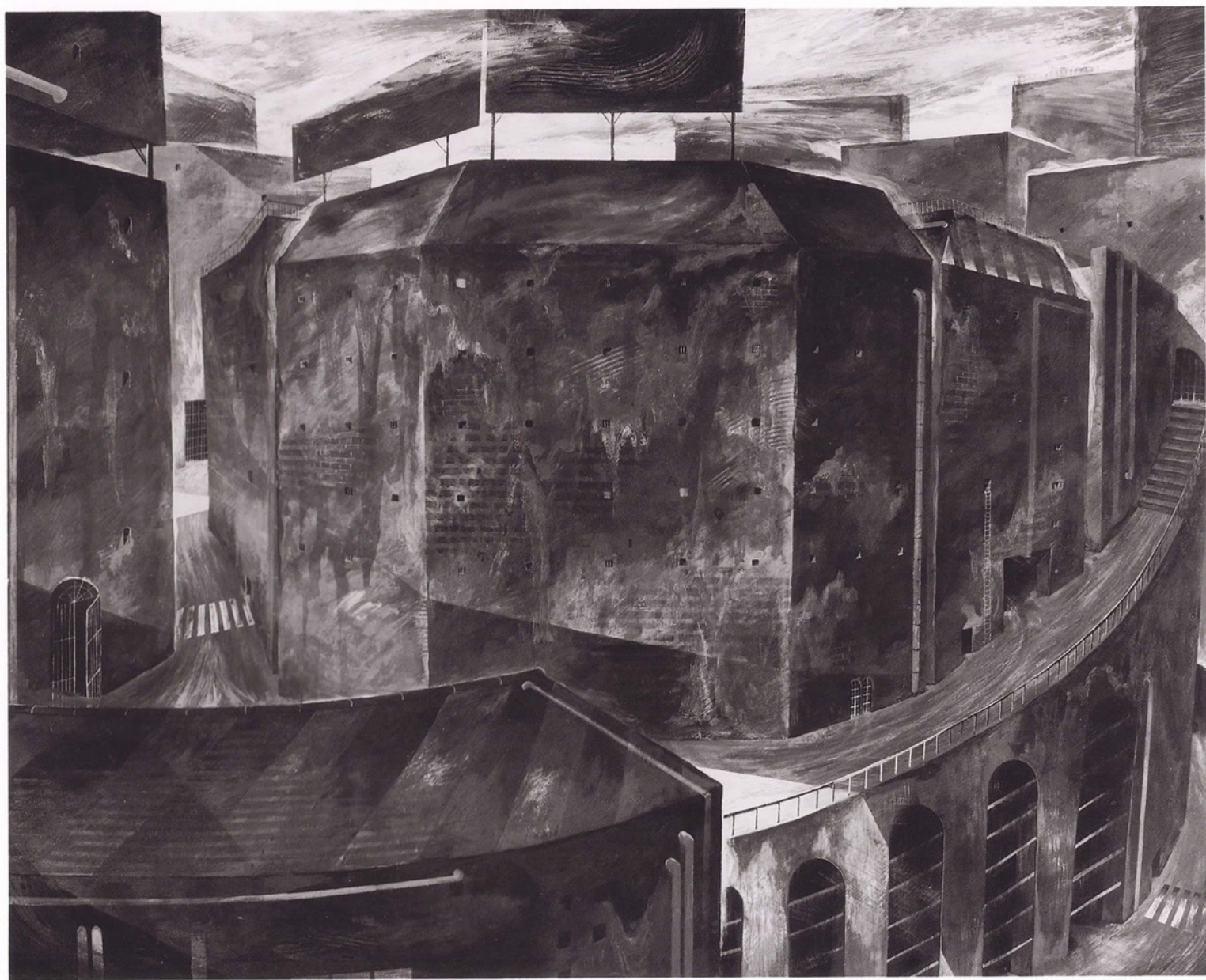
特 選 ■ 青木登史男 間・風景（洋画）



特 選 ■ 川越三郎 心の構造Ⅱ（彫刻）



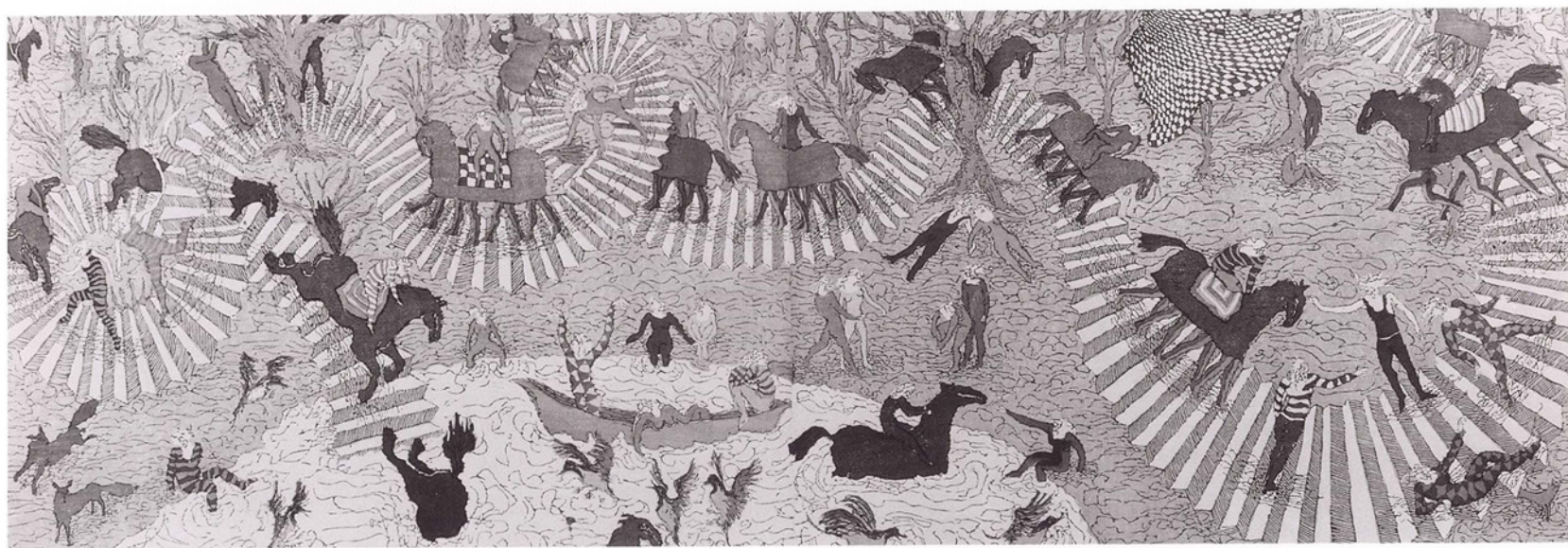
特 選 ■ 勝又豊子 遠い窓辺の風景（立体造形）



近代美術館賞 ■ 千住 博 風蝕の街 (日本画)



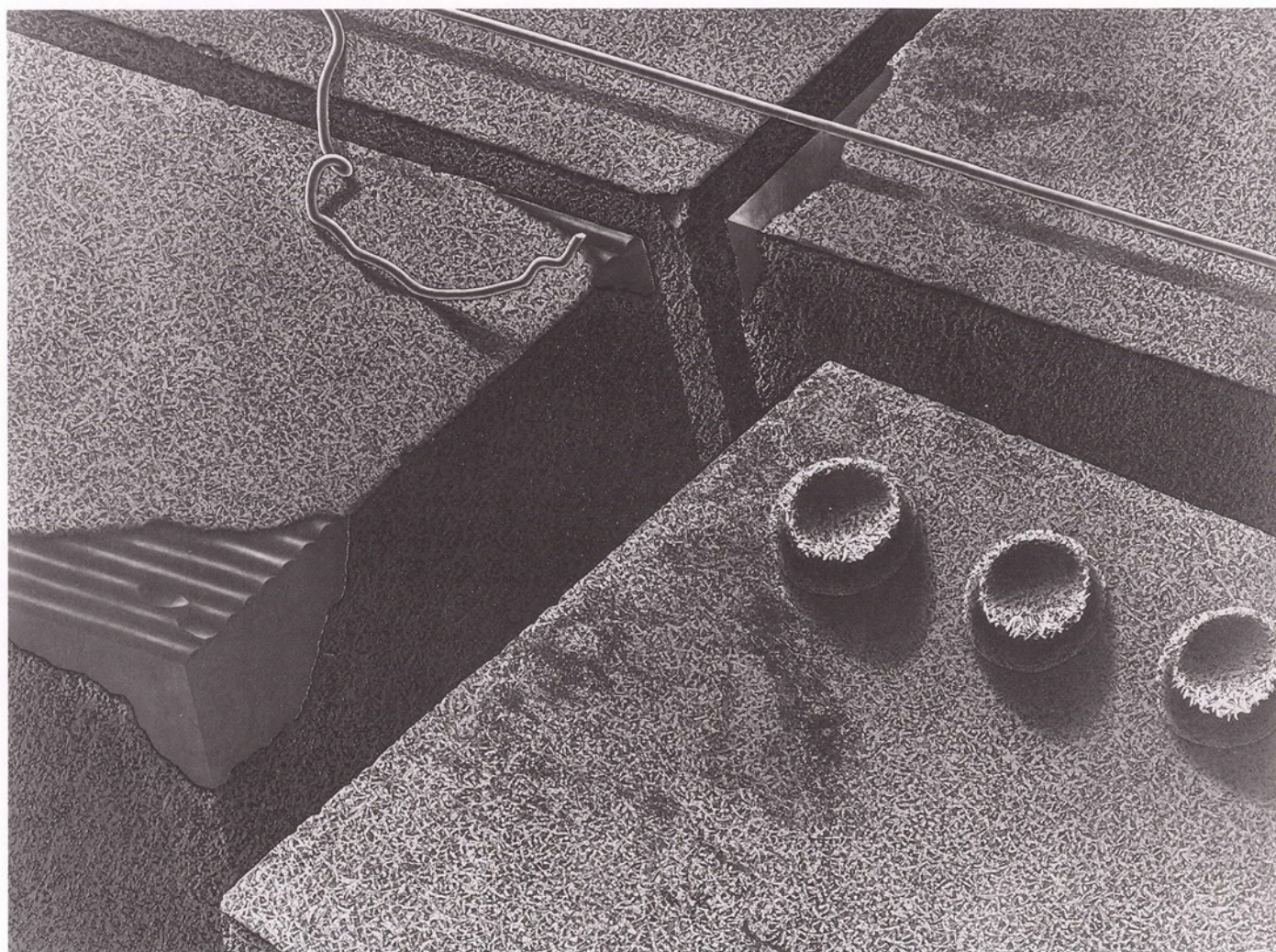
美術奨学会賞 ■ 斉藤典彦 夜に——甘い夢（日本画）



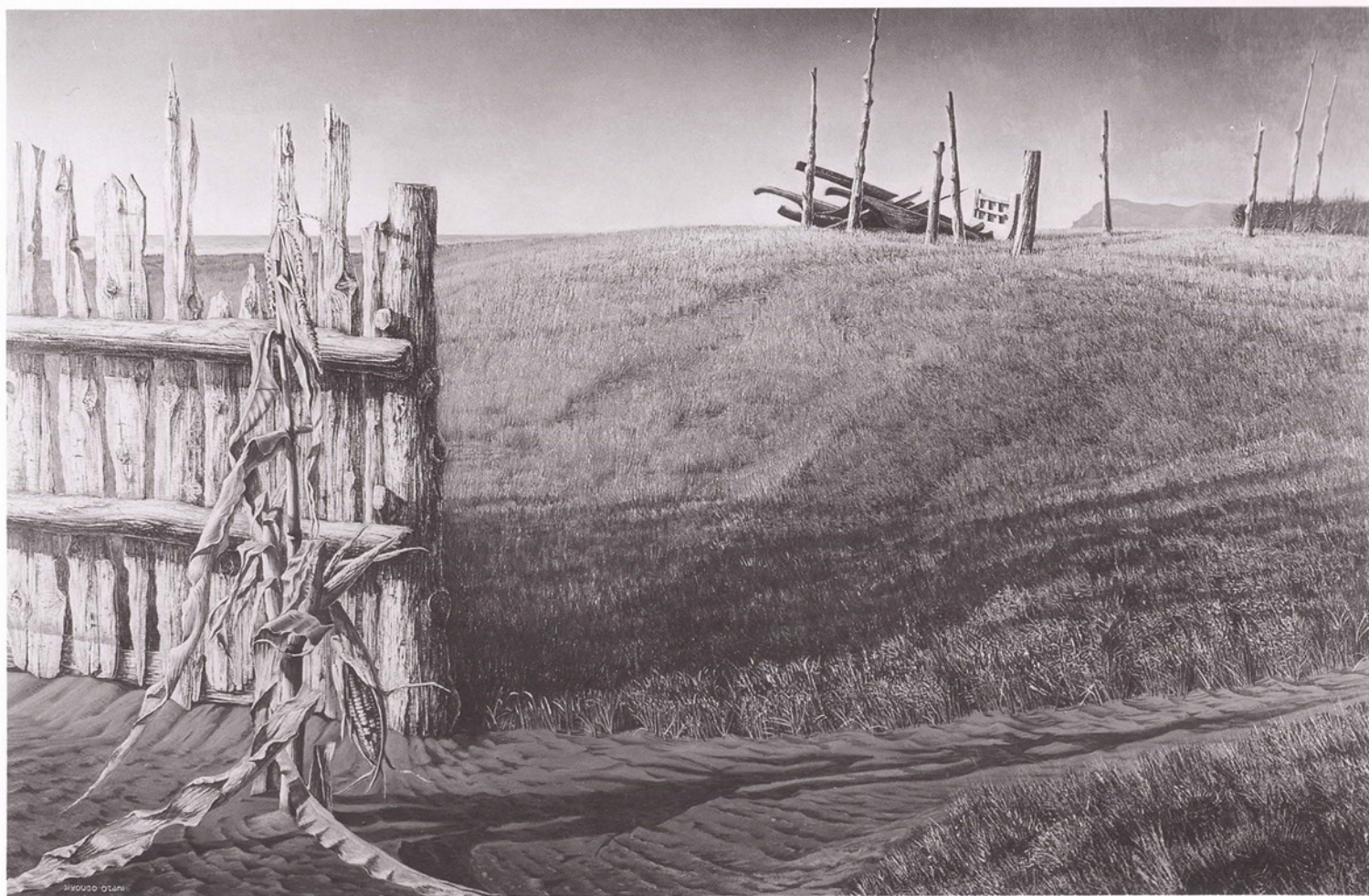
美術奨学会賞 ■ 大庭明子 北の森に棲むというあなたの夢(版画)

美術奨学会賞 ■ 原田和男
未確認歩行物体（立体造形）





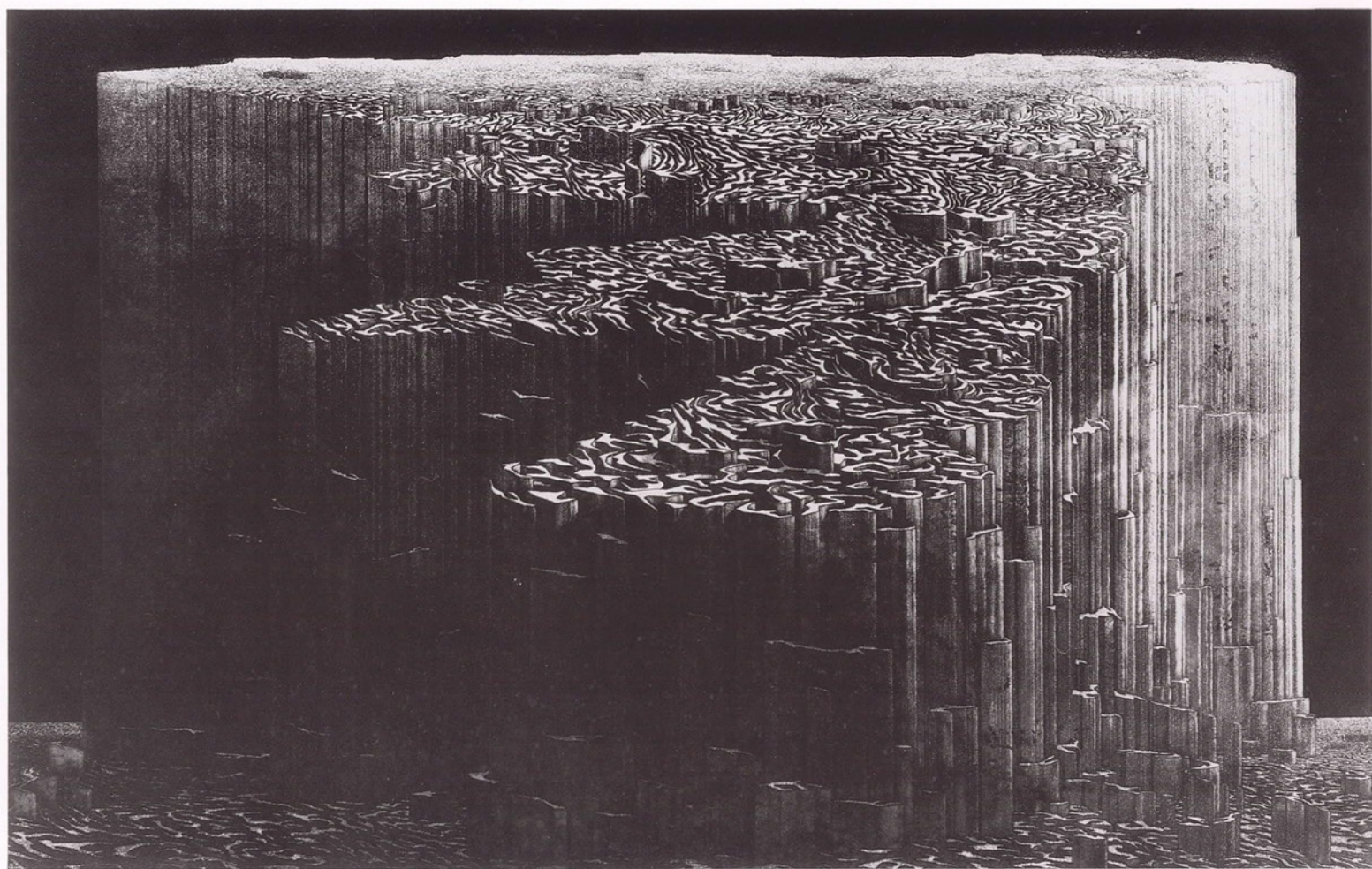
美術奨学会賞 ■ 荒木新子 銅景 Plan A-II (版画)



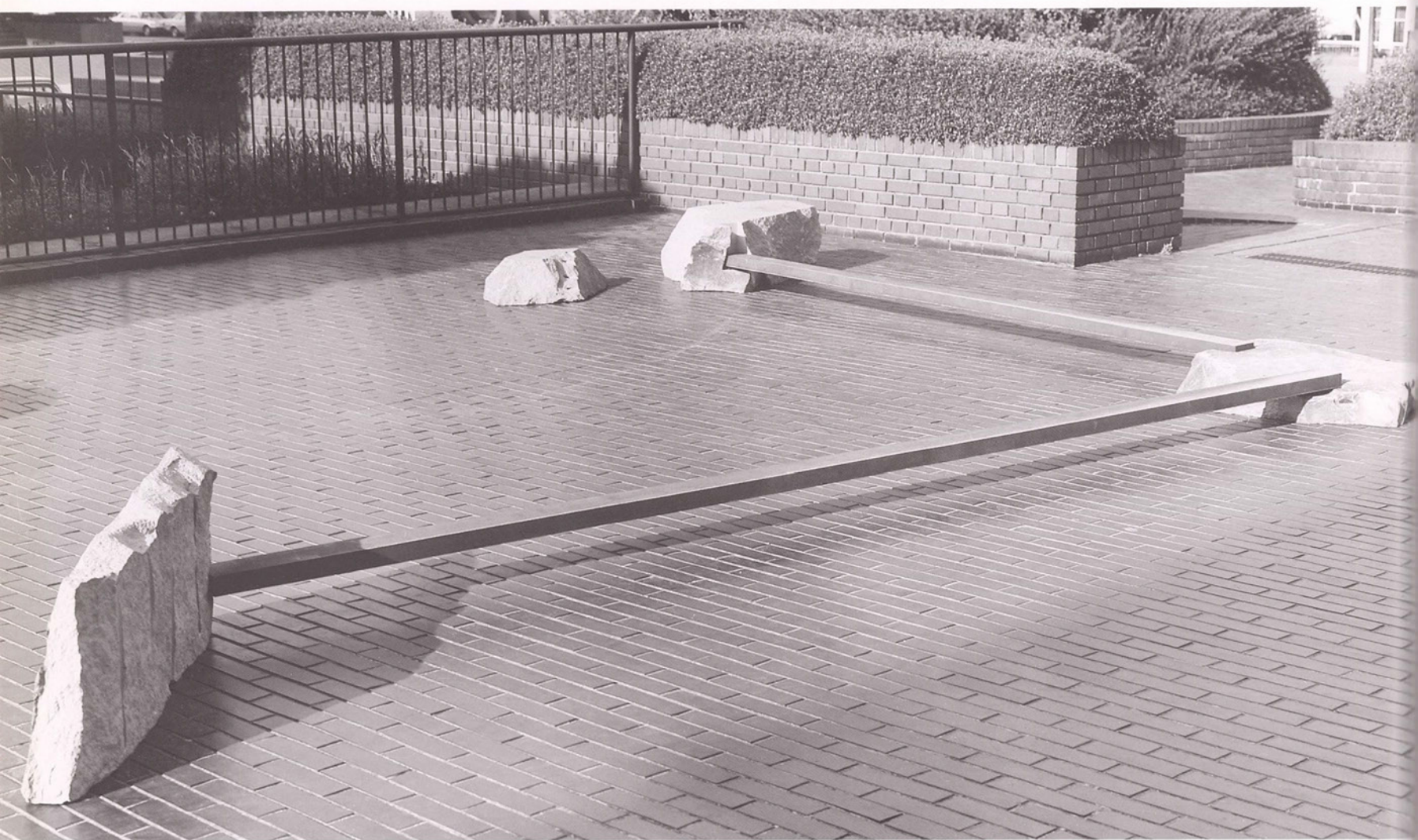
特別奨励賞 ■ 男谷省吾 風葬 (洋画)



特別奨励賞 ■ 渡辺尋志 律動（彫刻）



特別奨励賞 ■ 利渉重雄 張りつめた山 (版画)



特別奨励賞 ■ 山崎嘉久 間（立体造形）。

特別奨励賞 ■ 大江裕治
ツバサガアッタラ（彫刻）



■ 受賞作品目録 〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

■ 大 賞

井 上 麦 土の系譜（彫刻）

■ 準大賞

柳 沢 正 人 風化（日本画）

■ 特 選

青木登史男 間・風景（洋画）
川 越 三 郎 心の構造Ⅱ（彫刻）
勝 又 豊 子 遠い窓辺の風景（立体造形）

■ 近代美術館賞

千 住 博 風蝕の街（日本画）

■ 美術奨学会賞

斉 藤 典 彦 夜に一甘い夢（日本画）
大 庭 明 子 北の森に棲むという
あなたの夢（版画）
荒 木 新 子 銅景Plan A-Ⅱ（版画）
原 田 和 男 未確認歩行物体（立体造形）

■ 特別奨励賞

男 谷 省 吾 風葬（洋画）
利 涉 重 雄 張りつめた山（版画）
渡 辺 尋 志 律動（彫刻）
大 江 裕 治 ツバサガ アッタラ（彫刻）
山 崎 嘉 久 間（立体造形）

■ 入選作品目録

〈日本画〉

大 島 司 郎	無明
森 洋 子	日々
山 中 總	行く秋
佐々木史江	マヤの太陽
中 堀 慎 治	鳥回歸(女鷹匠)
松 崎 達 夫	過ぎゆくままに
松倉茂比古	わすれられたTokio
鈴 木 康 夫	陽光
間 瀬 静 江	領域 I
牧 野 一 泉	曠久譜
渡 辺 知 節	夢野
飯 野 静 江	創世一地に
山下まゆみ	猫と室内
奥山たか子	白衣の人
清 水 松 江	秋華
入 江 都 賀	或る日
中 村 英 子	ハローウィーンの仲間たち
三 浦 孝 輔	歴層讃歌(A)
森 川 典 子	赤い花の季節
匂 坂 均	孤影
香野ルミ子	ガメランの奏
杉 松 儀 一	造成地
吉 武 千 枝	海岩
小 林 千 里	風景
岡田はるみ	飄箏の器
鳥 山 玲	Nの方位
鈴 木 教 子	茫々
依 田 万 実	宵待草
松谷千夏子	K街の風情
野崎丑之介	青春一(早雲)
小 出 繁 弥	秋風
佐 藤 潔	Side A
渡 辺 薫	室内 II

〈洋画〉

庄 司 健 一	作品2
瀬 尾 初 枝	遊女のダンス(平安朝) I
加 藤 恭 夫	鳥のいる(II)
堀 美 門	朝露
杉 山 華 祥	裸婦
田 中 明	岬への道
小泉喜代次	トリオ
富 田 直 秀	壁B
原 秀 一	見物人
鶴 岡 元 子	出店の旅
山 手 政 男	内造式 II
小 平 功 一	強迫観念—ヨ・イ・ト・マ・ケB
宮 島 昇	鳥と月
石 川 俊 一	「月のある詩A」
丸 山 洋 子	収獲 I
南 田 昌 康	一隅
田 淵 俊 人	紅天譜(II)
海老塚英夫	シベリヤの地獄「貨車積み」抑留生活より
能 勢 美 保 子	景3
佃 二 葉	箱
岡 正 三	港の風
杉 本 剛	病棟
宮 越 薫	かなしいおもい
永 井 寿 美 子	踊る朝光
奥 田 紘	I am a boy '83
吉 濱 正 雄	埋立地
菅 野 昌 實	FIRE(1)
萩 原 和 子	室内
大 須 賀 理 恵	さよならチャージュメン
富 田 潤	からすうりのある風景
阿 部 照 夫	風景 II
大 村 優 博	朝市 II
松 田 浩	寒水の流れ

田 中 豊 BUTTOCKS II
 塙 眞 澄 連作反応「承」
 佐々木 薫 ずっとそうだったような気がする
 北 沢 重 子 青の連想(B)
 井 上 益 美 サントリーニ
 青 木 道 夫 舞明D
 大久保俊夫 ゲートボール
 竹 村 皓 子 夏のおわり
 蝦 名 協 子 曠野
 野 口 幹 夫 きみは
 岩 瀬 哲 夫 当り玉を持つコレクションおじさん
 藤 沢 彦 二 郎 地下鉄
 武 田 仁 志 秋冷
 服 部 み え こ 作品A
 小 沢 澄 子 遊泳
 渡 辺 楊 子 夜中の街
 大 石 法 枝 MECHANISM No. 1
 岡 田 房 子 プロフィール
 Hiroki Morinoue Imaginary Walk B
 藤 沢 愛 子 樹根No. 3
 西 川 美 賀 子 赤い鯉(II)
 斉 藤 次 郎 白い樹
 小 川 浩 フローラ
 田 野 井 俊 一 ポーズをとる裸婦と人形
 大 木 薫 鳥売り
 高 橋 和 子 平行動物A2
 白 井 恵 之 輔 トライアングル84-2
 佐 藤 直 滋 DRAWING NP-02
 辻 孝 子 平行風景3
 押 田 陽 子 漂うA
 出 口 佳 子 陽子No. 2
 古 道 健 治 閉ざされた赤い部屋
 佐 藤 武 大地(II)
 鈴 木 幸 子 椅子の刻
 河 上 明 彦 関~二人の風に~
 石 倉 直 樹 Small Jok Part V
 富 樫 京 子 触れる指
 加 藤 幸 寿 人間思考II

エドワードウェインヘンダーソン 狂気の三陰影法 3 SHAPES OF MADNESS

畠 中 陽 一 良識人たちの不安II
 菅 原 千 恵 子 博物館II
 森 田 次 男 ポスターのある静物

〈水彩画〉

セ オ ・ リ キ バード・ランドI
 阿 部 英 也 movin'B

〈版画〉

加 藤 豊 紀 創世一(浸食)
 成 田 進 訪問者(不埒な生体)
 寺 田 有 恒 螺旋階段
 太 蛾 亜 美 「耳袋」「鳥は食うてもトリ食うな」
 赤 羽 智 子 植物の祭典
 菅 沼 稔 Work 20-11-83、No. 3
 杉 山 一 夫 ヨコスカドブ板シリーズホテルなぎさ
 松 野 登 美 子 Pastoral Poem No. 2
 沢 田 顕 子 Shima-shima-island
 若 林 茂 無題
 浦 谷 弘 人 三つになれば
 大 島 弘 義 石の笛
 上 坂 和 代 A piece day
 川 上 洋 明 Weathering
 宮 藤 涼 一 はじまりの時
 田 崎 弘 子 ちしゃの国土
 宮 越 薫 inner space
 石 塚 啓 一 金網賛歌パートONE
 内 藤 克 美 LIFE一戯
 日向野桂子 バジャマ・ランド
 長 沢 康 子 装飾古墳の追想I
 萩 原 順 子 a busy street in a busy town
 安 部 一 博 SO・RA (I)
 本 宮 健 史 W83-3A
 荒 木 明 子 関係II
 市 川 有 子 海の風景-2

長 野 潤 子	かなたへー憧れ2
小 清 水 量 造	Relation8326
八 木 な ぎ さ	RA・KU・E・N V
四 宮 修	危険な季節'83-E
隈 部 滋 子	甦れジャックス
五 島 三子男	消滅する風景とイメージの為にC
奥 井 富 士 夫	ドライポイント3
郡 司 宏	無題
秋 庭 宏 行	こんには
桐 村 茜	夜の仮象を永遠が現前する時
藤 田 修	Towels & Forks
根 本 雅 行	J'S BRUSH

〈彫刻〉

小 杉 芳 功	Fの頭部
高 田 大	風説
坂 井 彰 夫	旅立ち
大 河 政 満	カオス
宇 野 務	幻影
新 垣 宏 久	9月
李 赫	崖の男
〃	土の女
西 巻 一 彦	生のリズム
泉 公 実 子	遠望
横 川 勝	立
川 口 シ ノ ブ	萌芽
酒 井 道 久	横浜についたブルーナ
小 野 田 勝	O氏の立像
村 上 博 史	とり(ちゃぼ)
西 村 栄 一	おじいさん
〃	首(1)
〃	首(2)
中 島 実	「人・愛」
高 橋 忠	好香
平 井 一 雄	石想

〈立体造形〉

松 村 武 夫	“翔べないトリの重さについて”
ツジキミュキ	SYSTEM DRAW「シコウ」
山 本 秀 夫	アボカリプス
茂 木 晴 子	私はロボット
人 首 康 二	点の集積
平 野 米 三	重界
古 川 巧	あなたの視力は大丈夫?
大 川 幸 男	芸
倉 橋 元 治	アフリカ I
窪 田 俊 三	空の柱
笹 岡 か お り	co-re
村 上 慎 二	GORONESHIA # 3
高 井 奈 津 子	TRIANGLE
西 村 盛 雄	無題
かじやまこーじ	SHAMANS
木 村 巧	EXIT
伊 東 直 昭	腕からの距離-04
大 北 利 根 子	いと・める
鈴 木 小 雪	うつる
土 屋 富 士 夫	ソフトマシーン
守 谷 春 美	感触による作業(五つのオブジェたち)
渡 辺 邦 夫	「支えられた平面 接点×6」
平 岡 悦 郎	Action and Reaction (parallel)
松 本 憲 義	原子心母
小 柳 幹 夫	リアクションXYZ
水 野 純	One Love
サナダ・サダヲ	作品=’83 にじみ02
和 久 井 Who	STRIPPING
青 野 正	the steel
松 峰 美 次	17th Lines-120×160
斉 藤 光 弘	from Cube
松 倉 藍 輔	風仕舞

■ 審査経過

〈日本画〉

神奈川県展も今年で19回を迎え、益々その内容において充実しているように思われます。私も度々県展の審査に接しておりますが、神奈川県展は非常に水準の高いものと思っております。

日本画に関しては、今年は出品者数と搬入点数が若干減少しましたが、そのことは少しも心配する必要がなく、素人のような方の出品が少なくなったものと思っております。審査会場に入りまして、最初にしたことは、それぞれの作品が、大作が多くしかもその内容が大変立派なものが多いという感じを受けました。117点の出品点数から40点以内にしぼることは、大変なことで、他の審査員の方々も同感だったと思います。しかし何回か審査をくり返していると、やはり優劣がはっきりしてくるもので、入選する作品はそれなりのものを持っているものです。もちろん入選点数に限度があるので、惜しくもその選にもれたものもありますが、来年に期して一層の勉強を願うものです。

絵は巧拙もさることながら、その作家の感動なり、それ自身の自我像のようなものです。受賞作品も昨年と同じようなものになりましたが、やはりその作家自身が裏付けになっているような気がします。

最後に希望を言うと、出品者層の巾がもっと広がると、県展が尚一層充実してくるのではないかと思います。

加藤東一

●審査員 片岡球子・加藤東一・工藤甲人・弦田平八郎

●搬入点数 117点(94人) ●入選点数 36点(36人)

＜洋画＞

今回は各部門とも応募点数が少ないようであったが、中でも洋画部門は目立って減少した。昨年度18回展の668点に比べて、482点であるから激減といってよいかも知れない。この数年来、徐々にではあるが増えていたのに、どうしてこのような傾向があらわれたのであろうか。

昨年の洋画部門は大変充実して、大賞、準大賞を独占した。本年は多分これらの賞が他の部門にゆくであろうという誤った憶測が心理的に動いたのかもしれない。また、59年度20回展は全国を対象に広く作品募集が予定され、華々しい展覧会になることから、満を持して応募を控える者が出たのかもしれない……。などと勝手な推測をするのだが、もし推測が少しでも当たっているとすれば、私はそのようなかけ引きがあつて欲しくないし、発表する以上は最善を尽くすべきであろうと思うのである。

17回展ごろから、私は世代交代の兆しを指摘してきたが、これが世代交代の一つのあらわれとすれば、消極的であるが希望であるといつてよいかも知れないし、そうであつて欲しいと思うのである。応募点数が減ることは、内容的にも沈滞することはいなめないことである。20回展を大いに期待したい気持ちでいっぱいである。

もちろん、応募点数が少ないとはいえ、80点の入選は相当な厳選である。やや活気に乏しかった中にも、注目すべき作品は幾つかあった。中でも特選となった青木登史男の「間」、風景」、特別奨励賞男谷省吾の「風葬」、賞候補に推された大須賀理恵の「さよならチャーシューメン」、井上益美の「サントリーニ」など、それぞれ個性的で独自の世界を見せた。青木の二つの作品は水彩画であり、洋画部門で水彩画が最も高く評価されたことは今回がはじめてであり、その質的な高さは着目すべきものと思う。男谷は二度目の受賞である。

国領経郎

●審査員 国領経郎・匠秀夫・宮崎進・横地康国・渡辺恂三・

渡辺豊重

●搬入点数 482点(260人) ●入選点数 80点(79人)

＜版画＞

神奈川県では毎年世界的規模で版画アンデバンダン展が開かれており、一般の版画に対する関心も高く、県展出品者も他県に比べてその数も質も高いレベルにある。

今年の出品者は昨年とほぼ同数であり、しかも皆意欲的で作品の大きさも大型化しており、質も高いのが揃っていた。

審査はまず出品作全部をしばらく通して見てから、出品者一人一人の作品の前で審査員全員が話し合いながら入落を決めていった。

版種の違い、表現方法を仔細に見て版表現としての良し悪しを決めて行くのは大変難しい仕事である。

このプロセスを行きつ戻りつ繰り返して行くうちに自ずと入選も決まり、同時に審査員の意中に賞の候補もある程度決まって行く。

結果的には1人1点で41点が入選作となった。その入選率25%という数字は大変厳しい審査を表わしている。

次に賞候補を各自選び出し、11名の候補が勢揃いした。ここで各審査員の投票によってさらに8名にしばっていった。この段階で各作品について審査員夫々の主張によるディスカッションが行われ、最終的に4名の受賞者を決定した。

結果的に銅版のモノクロームが2名、カラーが1名、木版が1名選ばれた。受賞作は夫々の版種の中で自分の個性を生かしながら現代的内容の表現を行っている点、皆好感のもてるものであった。受賞者が前回と重複するものもあったが、全体の中でやはり光るものは致し方あるまいと思われる。

版画は作者の感動なり、主張を直接ぶっつけてすむものでなく、版作りと印刷のプロセスを経て出来て行くものであり、そこで最終的な結果まである程度見越して作って行かねばならない。従ってかなり版に精通した技術が必要であり、やゝもすると版だけの特殊性に寄りかかってしまう結果を招くことがある。今回の出品作の中にも版だけの特殊性に終始したものもあり、それらは落選している。

又力作であり、大作であっても内容が陳腐で程度の低いものは落選している。

映像を使った作品も、一時期程の多さではないが出品されたが、製作のプロセスの中で映像の内容と版との兼ね合いがあいまいなのは、やはり落選している。立体的な作品についても、版としての主張があいまいである点が指摘された。

版画も現在のように盛んになると、かなり高度の技術を持ち、しかもしっかりした内容を主張していないと、なかなか世に出られない時代になってきた。

馬場橋男

●審査員 斉藤清・斉藤寿一・島州一・馬場橋男・柳生不二雄

●搬入点数 162点(69人) ●入選点数 41点(41人)

〈彫刻〉

一つの彫刻作品を出品するには、発想までの時間と、意図したことが出来得る技術、素材選びから制作場所、運送等多くの問題が解決されなければならない。だから他部門と比較して出品点数の少ないのは、やむを得ない。それでも神奈川県展に、水準の高い作品が、64点も集まったということは、出品者が、この県展をコンクールの場として、力を競い合い彫刻家の登竜門としての期待をかけている証左である。

審査当日集まった4人の審査員は、64点の中から20数点に選別することの困難さを語り合った。そこで、審査の方法として、

- I. 造形力に優れ、新しい感覚をもった作品であること。
- II. 個性豊かで、創造力のあるもの。
- III. 過去の経歴、個人的な繋がりは無視し、あくまでも作品本体でみること。

以上のことを定めた。最初の選別で、入選23点。保留21点。落選20点とした。暫時休憩した後、入選作品を再検討することにした。その内2点の作品については、大きさや努力は認めても、造形的に弱いと見て落選とした。保留の中から4点を選び出し、結果27点を入選と定め、その中から4点を受賞候補にした。この間に、4人の審査員は、それぞれの意見を出して討議し、満足の行く結果を得た。

大賞の井上氏の作品は、マヤ文化の太陽神を彷彿させ、力強いフォルム、帯状の彫りに心奪われる。特選の川越氏も石彫の抽象形体で、曲面の構成がすばらしい。肌面が暖かく、みる者に伝わる。特別奨励賞の渡辺氏も石彫で、ギリシャ古典期を思わせる裸婦像。清楚で、美しいハーモニーを奏でる。同賞の大江氏の裸婦像は、木彫の木肌が美しく、特に腹部の処理がよい。その他賞に入らなかったが、季赫氏の首2点も見逃すことのできない個性ある作品である。抽象作品が少なかったのが残念だった。20周年記念展に期待をかけよう。

小島弘

- 審査員 井上信道・小島弘・松田喜三郎・三上次男
- 搬入点数 64点(48人) ●入選点数 25点(22人)

〈立体造形〉

今回の立体造形部門の搬入点数は73点で、審査の結果35点を入選とした。例年この展覧会の立体造形部門は、実験的な意欲にみち、質的にも充実している。わたしがこの部門の審査に加わったから、身びいきやセクショナリズムでそういうのではない。わたしはむしろ、彫刻と立体造形の分類など無意味だと考えているし、これまでいくつもの県展審査にあたった経験からみても、審査はジャンル別をこえて統一的になされるべきだと思う。来年はこの展覧会は、全国から作品を公募するというので、委員会と県当局はぜひ統一審査について検討してほしい。

さて今回の立体造形部門からの受賞作、受賞候補作について、簡単にふれておこう。勝又豊子は鉄を素材として、人体の内臓や骨をとり去ったぬけがらのようなかたまりと、椅子などの家具を組み合わせた作品で、これまでも何度か受賞している。だが、今回の「遠い窓辺の風景」は、一段と進境をみせ、選考過程で一時は最高票を集めたが、決選投票で大賞を逸し、特選となった。特別奨励賞を受賞した山崎嘉久の「間」は、床面の三つの地点に配した石に、二本の金属柱をかけ渡した作品で、野外の空間におかれるにふさわしい、力づく明確な想念が感じられる。美術奨学会賞の原田和男の「未確認歩行物体」は、屈曲する鉄棒や鉄板を組み合わせ、巨大な昆虫のような形をつくりだしている。作者は四体あわせて一点として出品したが、審査員たちはむしろ一体の方が形態の特異なおもしろさがきわだつと判断し、作者もそれを了承した。立体造形部門からはもう一点、小柳幹夫の「リアクションXYZ」を賞候補にあげたが、惜しくも入賞しなかった。これは不等辺三角形で中央部がやや突出した白いシェイブド(変形)・キャンヴァス三点から成り、それらを二つの壁や壁と床が90度の角度で接合するコーナーに置き、空間を変容させる作品だが、キャンヴァスに少々よごれがめだつのは残念だった。

針生一郎

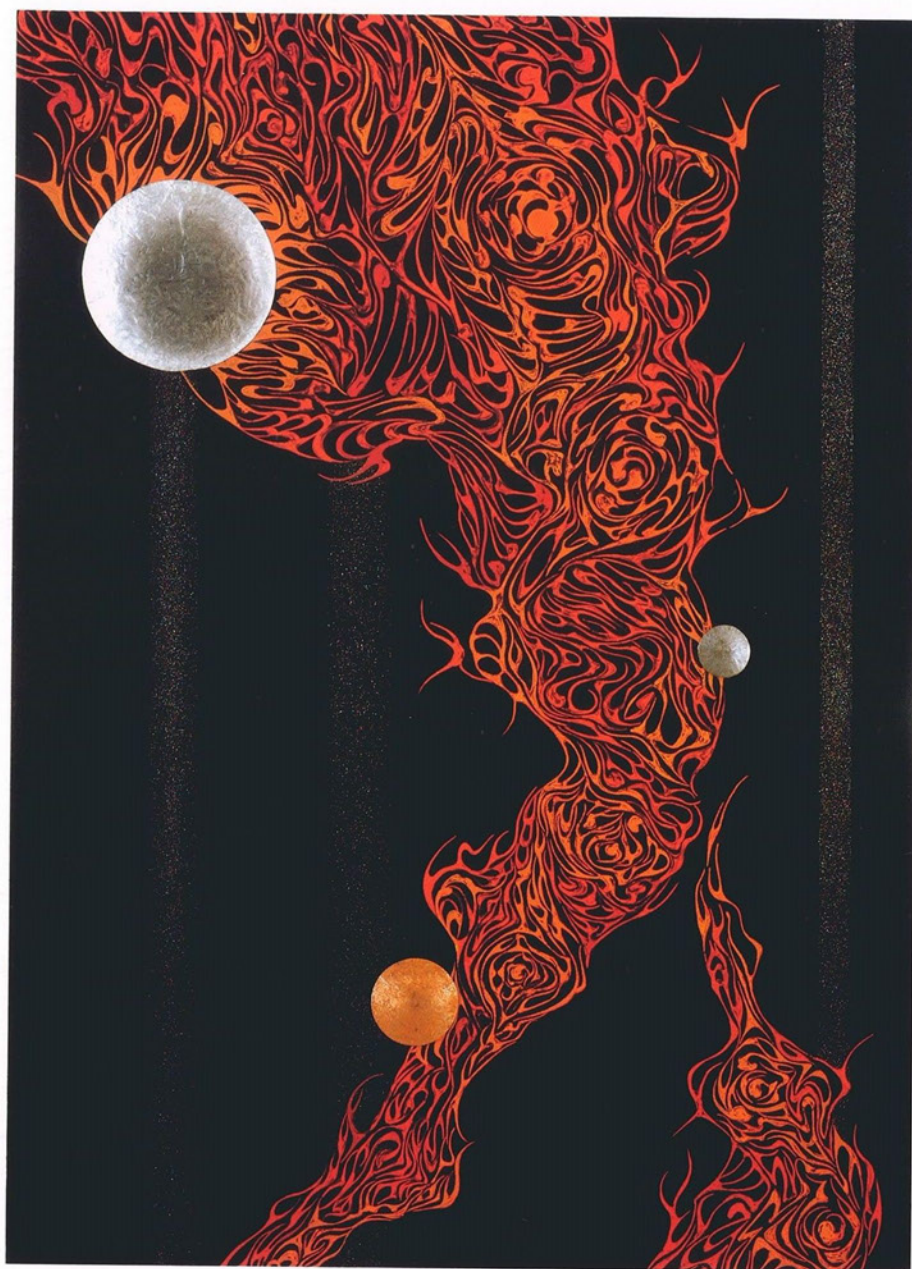
- 審査員 秋田由利・柏原えつとむ・斉藤義重・針生一郎
- 搬入点数 73点(61人) ●入選点数 35点(35人)

■ 工芸 ■ 書 ■ 写真

1期展・S59年1月25日→2月5日



大賞 ■ 茶木静谷 竹聲松影（書）



準大賞 ■ 野口 厚 天焼 (工芸)



準大賞 ■ 片岡順一 爆音直下の街(厚木基地)(写真)



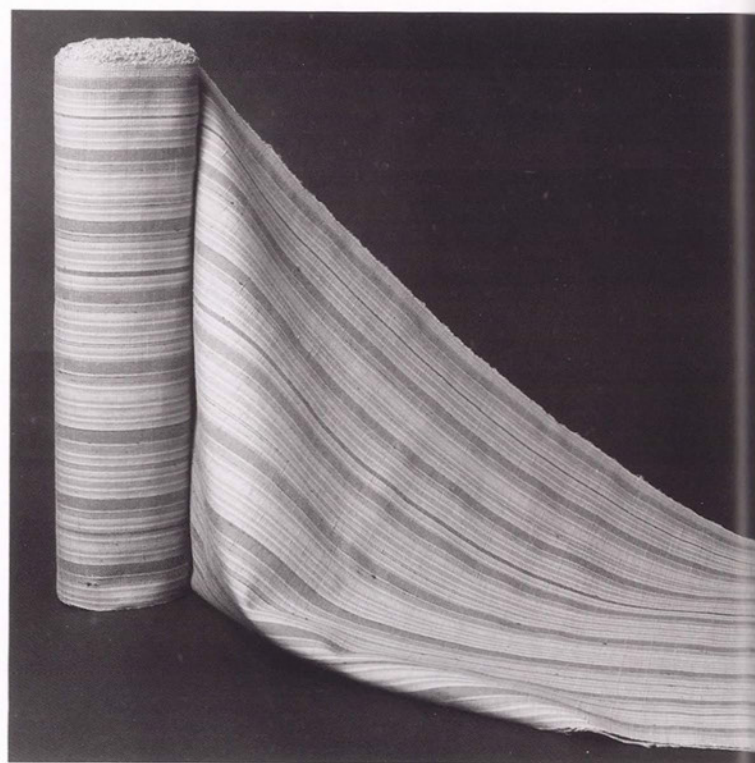
特 選 ■ 野中春甫 青白磁大鉢（工芸）



県議会議長賞 ■ 山下昭雄 湘南物語（写真）



美術奨学会賞 ■ 内田悦代 吐息（工芸）



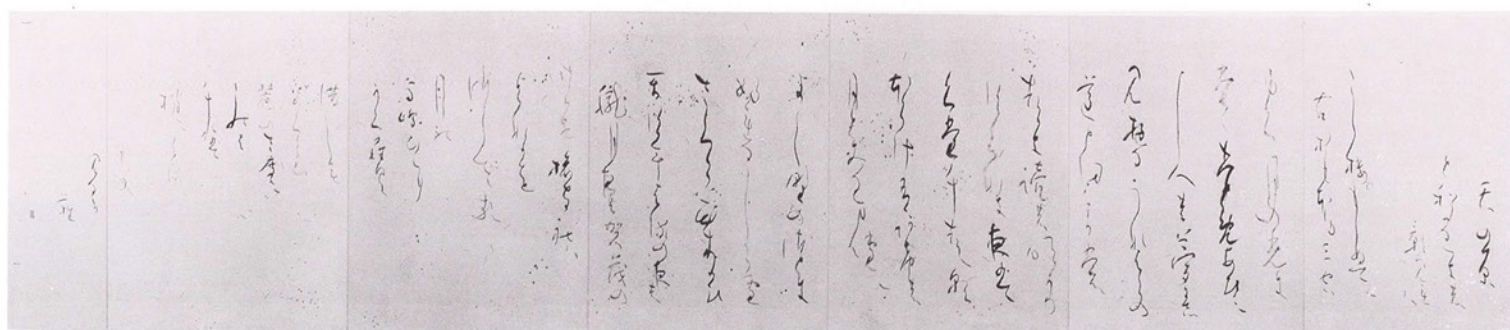
美術奨学会賞 ■ 黒沢伸子 秋の野に（工芸）



美術奨学会賞 ■ 澤井幸男 練上壺（工芸）



美術奨学会賞 ■ 中野幸男 渦潮（工芸）



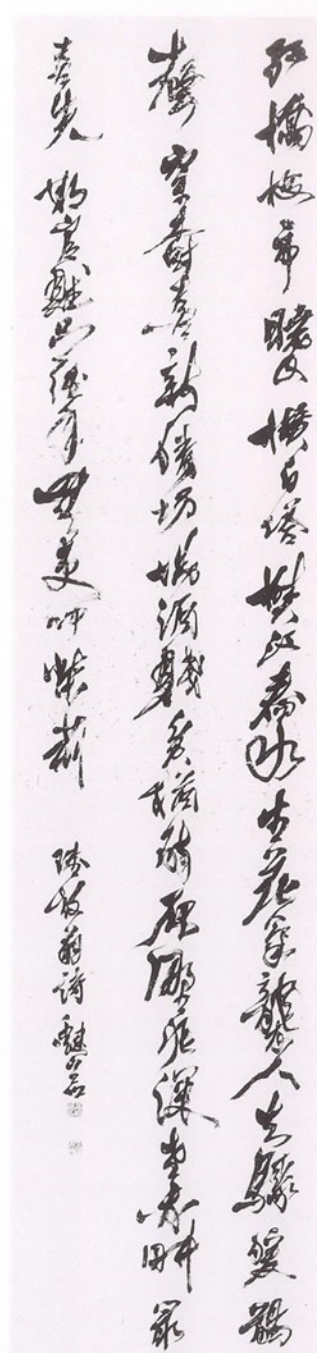
美術奨学会賞 ■ 高崎隼雲 陸放翁詩（書）



美術奨学会賞 ■ 関口洋子 遊離そして集結Ⅱ（工芸）



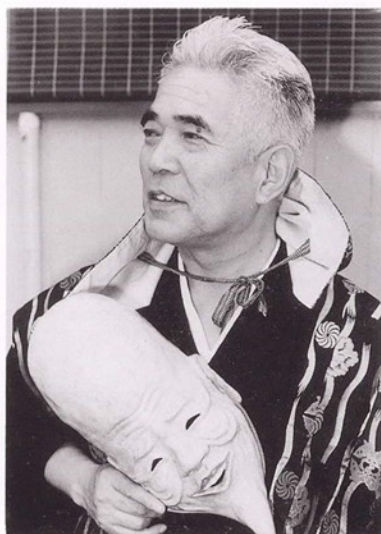
美術奨学会賞 ■ 大木 暁 「サングラスの蕪村より」(書)



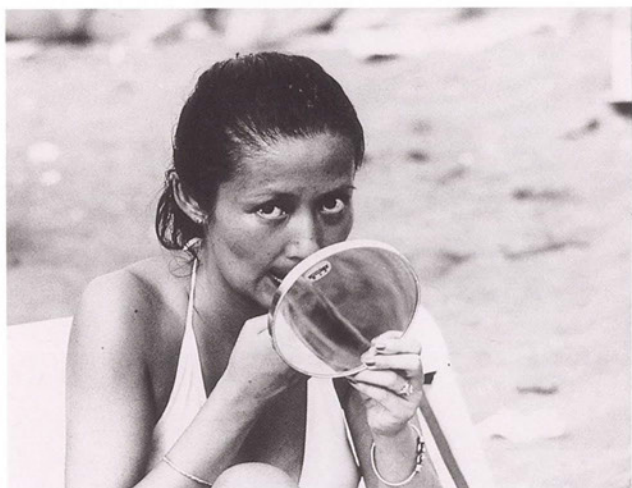
美術奨学会賞 ■ 高木幸子 月の歌(書)



美術奨学会賞 ■ 小室 宏 新興都市 (写真)



美術奨学会賞 ■ 中村 信 鎌倉の神楽師 (非人面行列) (写真)



美術奨学会賞 ■ 佐々木孝義 湘南海岸 (写真)



美術奨学会賞 ■ 千屋栄市 彼岸の頃 (写真)



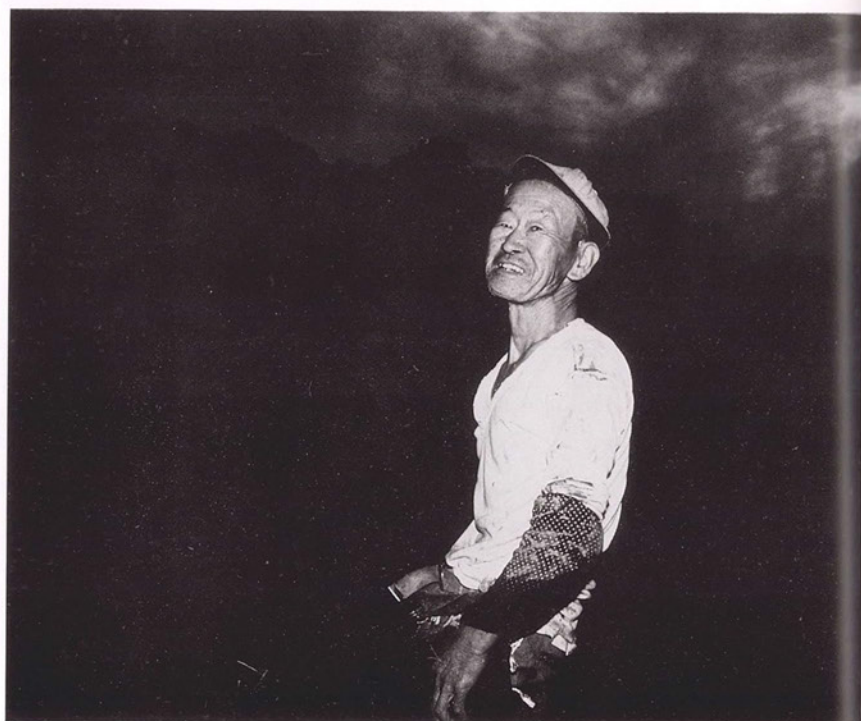
美術奨学会賞 ■ 川口弘純 出番待ち (写真)



美術奨学会賞 ■ 川久保欽司 十勝川秋あじ漁 (写真)



美術奨学会賞 ■ 直井三男 深川・水かけ祭りの日（写真）



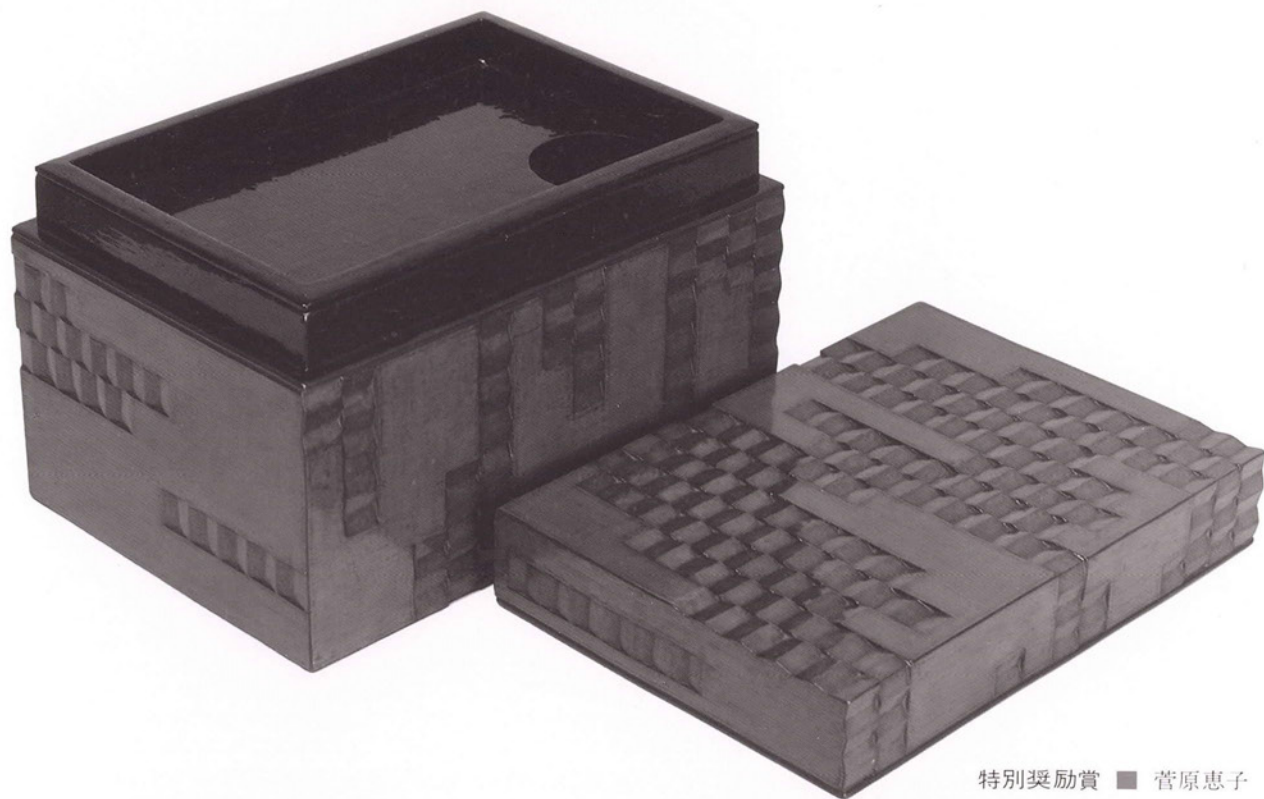
美術奨学会賞 ■ 手塚侑江 老爺（写真）



美術奨学会賞 ■ 坂場 孝 雨のバラード (写真)



美術奨学会賞 ■ 木村杏平 夢想花 (写真)



特別奨励賞 ■ 菅原恵子 鎌倉彫 茶箱（工芸）



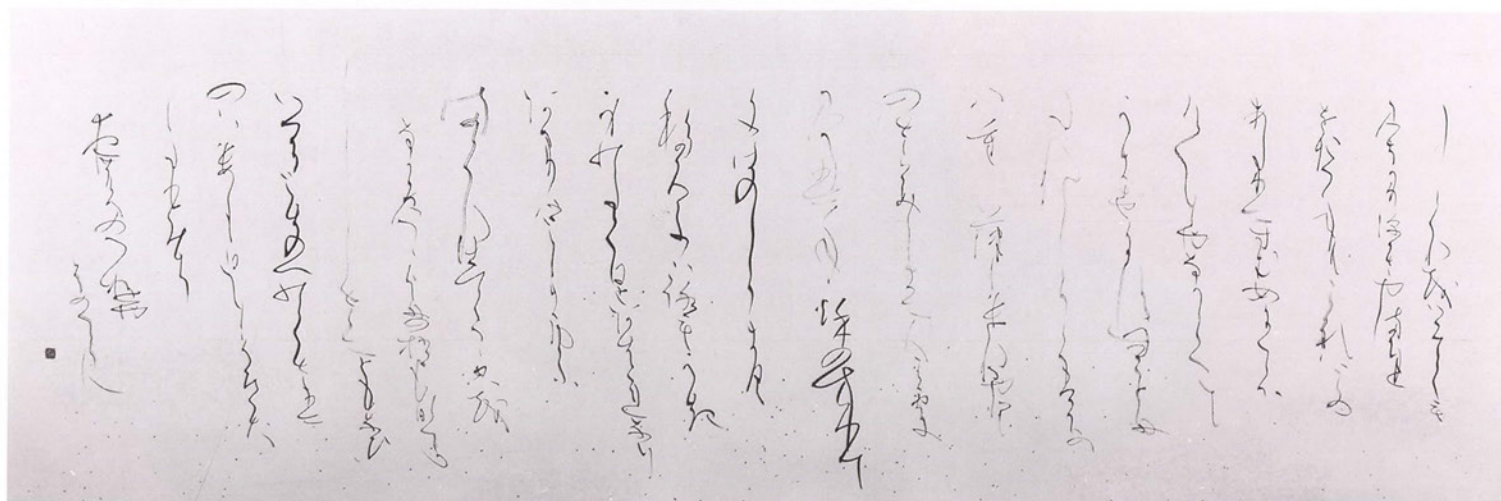
特別奨励賞 ■ 山口和子
タクラマカン狂詩曲（工芸）



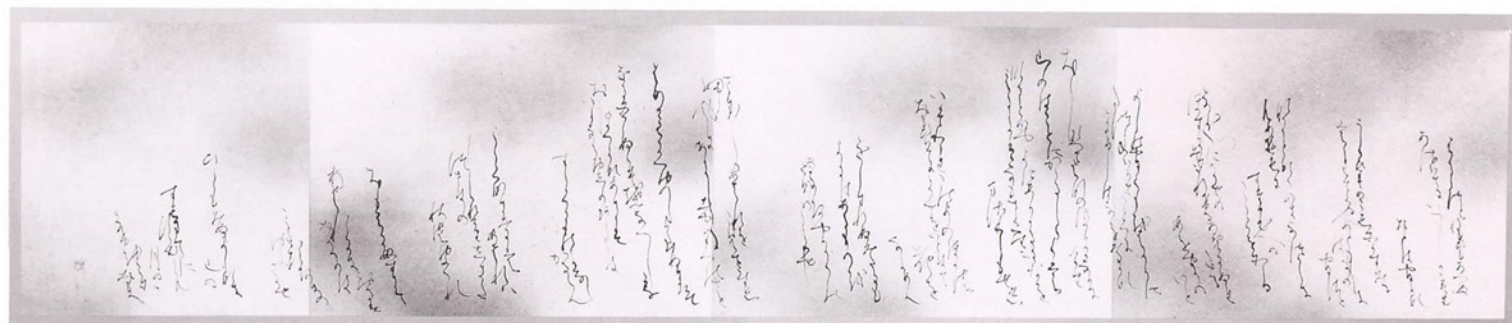
特別奨励賞 ■ 清国律美 一閑文様大平盆（工芸）



特別奨励賞 ■ 島田幸一 青瓷大鉢（工芸）



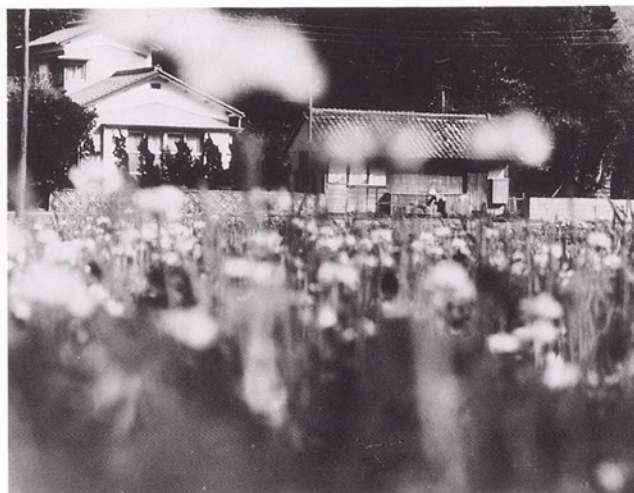
特別奨励賞 ■ 柳澤弘子 紅葉狩（書）



特別奨励賞 ■ 日野珠光 西行の歌（書）



特別奨励賞 ■ 村上昭子 裏通り (写真)



特別奨励賞 ■ 今井 稔 西伊豆の春(松崎) (写真)

■ 受賞作品目録 〈工芸・書・写真部門〉

■ 大 賞

茶 木 静 谷 竹馨松影(書)

■ 準大賞

野 口 厚 天焼(工芸)
片 岡 順 一 爆音直下の街
 (厚木墓地)(写真)

■ 特 選

野 中 春 甫 青白磁 大鉢
 (工芸)

■ 県議会議長賞

山 下 昭 雄 湘南物語(写真)

■ 美術奨学会賞

黒 沢 伸 子 秋の野に(工芸)
内 田 悦 代 吐息(工芸)
中 野 幸 男 渦潮(工芸)
澤 井 幸 男 練上壺(工芸)
関 口 洋 子 遊離そして
 集結Ⅱ(工芸)
高 崎 隼 雲 陸放翁詩(書)
大 木 暁 「サングラスの
 蕪村より」(書)
高 木 幸 子 月の歌(書)
杉 山 梅 波 杜甫詩(書)
山 田 愁 風 白楽天詩(書)

川 口 弘 純 出番待ち(写真)
佐々木孝義 湘南海岸(写真)
千 屋 栄 市 彼岸の頃(写真)
中 村 信 鎌倉の神楽師(非人
 面行列) (写真)
木 村 杏 平 夢想花(写真)
小 室 宏 新興都市(写真)
手 塚 侑 江 老爺(写真)
坂 場 孝 雨のバラード
 (写真)
直 井 三 男 深川・水かけ祭
 りの日 (写真)
川久保欽司 十勝川秋あじ漁
 (写真)

■ 特別奨励賞

山 口 和 子 タク라마カン狂
 詩曲 (工芸)
清 国 律 美 一閑文様大平盆
 (工芸)
菅 原 恵 子 鎌倉彫 茶箱
 (工芸)
島 田 幸 一 青瓷大鉢(工芸)
関 口 大 湫 蘇東坡詩一首
 (書)
柳 澤 弘 子 紅葉狩(書)
尾 崎 静 鳳 杜甫詩(秦州雜詩)
 (書)
日 野 珠 光 西行の歌(書)
村 上 昭 子 裏通り(写真)
今 井 稔 西伊豆の春(松崎)
 (写真)

■ 入選作品目録

〈工芸〉

谷口鳳現 蜀江錦模様(鎌倉彫)文庫
 桑原平治 壺(灰釉)
 岡田稔 SERIES製—CONMOTO—
 中沢秀 光陰
 坂巻郁代 AKEBONO
 建部敏枝 リング
 山田光孝 練込銀杏文組皿
 稲垣隆祥 触発
 矢内寿津子 人形雅児合掌木彫・胡粉
和紙彩色
 坂井輝夫 青瓷壺
 斉藤由一 栄枯盛衰(透胎七宝)
 鈴谷茂翁 天城溪流(漆箱)
 青山真紀 漆「インスピレーション」
 吉崎えり 城
 堀井美枝子 かざくるま
 石井智裕 鉄組組鉢
 大湊一恵 希望
 武田春比古 青釉彩鉄赤扁壺
 湯浅正子 ……in spring
 柴崎信太郎 クリスタル花器
 中曽根馨 囁き—Twilight—
 三輪博子 悠久
 内川清徳 あけぼの
 咲田卑弥子 銀河への回帰
 重松忠道 白釉割山柄
 高澤正行 INFERRIATA
 前仲万里子 染付色絵鉢
 前仲邦哉 白瓷壺
 大津由美子 ILLUSION“triangle”
 吉川則夫 春霞
 松本幸江 Bird
 田野佳代子 IN THE RAIN
 芥川美千代 風花
 稗田燐子 PUFF (淋しくなんかない)
 足立治男 砂漠のラビリンス
 奥田光代 花芯

吉崎僚一 雲錦三島皿
 大塚和代 銀研出方形皿
 馬場芳道 象嵌壺
 桜井龍太郎 染付山茶花文大皿
 田中實 朝霧彩壺
 金子清 天目彩条文鉢
 勝文彦 凝結(七宝)
 石井理恵 一瞬からの思い
 中尾雅子 “フェスタ(祭日)”
 米山光 焼メめかめ
 猿田洋子 象嵌花器
 中野千代司 萌ゆる頃
 福岡幸基 グラヴィール菊文鉢
 乗松清子 愁
 上田菊明 彩雲(刺繍名古屋帯)
 川村由海 かすみ草文花生
 高木参平 BODY'83-NO.3
 佐藤秀雄 渦巻紋様七宝しらべ
 飯塚みゆき 雪どけ
 谷田部君江 抱く
 南雲竜比古 森と湖の国
 三嶋真美 コンポジション
 長澤義春 練込壺
 北田博美 波
 牧村秀幸 つまみ縫文の造形
 木下もと子 藍染横浜開港文着物
 山下敦子 白い時
 中山啓子 深層心理
 山田御秩子 「昂」(すばる)
 藤橋和江 流紋(飾皿)
 門脇万紀子 魚紋(飾皿)
 加納長作 練上白煙文鉢
 佐々木達行 三島魚文壺(B)
 青田圭子 Kaleidoscopic Universe
 山本多江子 PHAN-PHAN
 大原乾資 染藍染板締のれん
 わた辺きょうこ 有線七宝蓋物「春歌草」

〈書〉

大矢鳳城 乳…(甲骨字)
 松永光鳳 奥の細道
 山口清晴 杜少陵詩
 小巻仙空 杜甫詩
 田尻撫瑶 王鐸帖臨書
 神谷芝崑 漢古詩
 横山芳碩 曹植詩王粲に贈る
 外山翠崑 劉長卿詩
 英ミチ子 李白詩春日帰山寄孟浩然
 尾家班崑 張璪圖詩
 池田撫草 王士禎詩
 金子如龍 蘇東坡詩
 高木泉 般若心経
 河合瑞祥 演雅(黄庭堅詩)
 竹俣華崑 傳山漢古詩
 阿部翠峰 黄山谷詩黄冕仲が雙井を煎ずることを
 白水敬華 元稹詩 索むる答へ并せて場休に閑す
 津田崑彬 寒山詩二首
 大島謙介 高適詩
 内海祥月 杜甫詩
 北島芳谷 薬師瑠璃如来本
 中村小葉 願功德経
 吉本寿峰 臨安春雨初霽
 鈴木美翠 五言律詩
 小野寺聖石 近代詩文書田中冬二の詩
 大内弘子 秋の目
 井上美子 十五夜のお月さん
 齊藤湖石 鹿鳴集より 会津ハ一
 滝沢秀石 冬の辞 山村暮鳥
 川瀬魚石 鮎鷹 北原白秋
 問馬敬竹 近代詩文書(三好達治詩 木鬼)
 山下和風 石川啄木の詩 ひとつ家
 薩川弘 中原中也詩(童謡)
 関根玄道 山村暮鳥の詩「月」
 清水金次 近代詩文 新川和江の詩「春」
 石井富代 近代詩文書(日没) 八木重吉詩
 俵はごろごろ

萩村迪与 すずめ
 森山可余 「おもたかなしみ」の一節
 (八木重吉)
 為井蘭葉 北原白秋の詩 白牡丹
 田中 亨 哀別
 住本稀芳 秋の女
 戸村和憲 北原白秋詩
 土田武子 遠野物語の村
 八木房江 別所直樹の詩「野火」
 岩井明子 山ざとは秋こそことにわびしけれ…
 深松三光 春寒 伊達政宗作
 吉川敦子 夕映
 田中久美子 さみだれ
 川島喜代美 江行
 浜本 茂 蘇東坡詩
 野田翠蘭 讃岐典侍日記
 矢追章子 神奈備山
 佐野修子 花さそふ
 岩川千恵子 三十六歌仙抄
 吉田照子 わが宿の
 近藤粹処 雍陶詩
 嵐 小丘 削觚廬
 府川泉処 錢起詩
 佐藤柚処 李長吉詩
 今井柳譚 岑參詩
 江藤紘子 劉長卿詩
 赤松園処 沈佺期詩
 安田蘭英 盧綸詩 長安春望
 大熊溪川 岑參詩
 吉田翠山 杜牧詩
 柴岡明洞 劉得仁詩
 玉井佳香 來鵬詩
 菅野堯處 李白詩 過元家履信宅
 鎌田柊処 陸游詩
 谷口春泉 高啓詩
 田澤兆処 劉淮詩
 石田治代 郎士元詩
 石坂梓昆 劉長卿詩感懷
 鈴木蓉処 蘇軾の詩

森 草坡 白楽天詩
 衣袋有子 李嘉祐詩
 植村三洲 魏下蘭座右銘
 長谷川青園 王維詩「使至塞上」
 吉村瑞峰 陶淵明詩
 林 如巖 杜甫詩
 栗原笙如 良寛の詩
 平田十臥 盧綸詩
 瀬戸翠谿 贈蕭兵曹
 佐藤義将 李白詩
 栗原東崖 杜甫の詩
 浜崎道子 詩経豳風之詩
 長谷川栄子 中国南朝詩「登池上桜」他一首
 山本右高 何紹基
 土屋右泉 小島切抄
 橋本抱葉 黄山谷詩
 滝口伸葉 蘇東坡詩
 梶川景谷 読鄧魴詩
 木須青苑 王維の詩
 園田祥陽 杜甫詩
 大木修葉 贈李十二白
 中溝芳子 白楽天詩
 田坂栄羊 大器晚成
 石川春羊 牡丹之賦
 佐藤緑羊 萬籟士詩(五言右詩)
 渡辺游香 草香沙暖
 山田恵茜 五言古詩(韋應物詩)
 横山葉子 杜甫詩 顔中八仙歌
 富山陽寿 蘇東坡詩宿臨安淨土寺
 安部梅陽 杜甫詩
 布川静藍 源氏物語臨
 本田明陽 劉廷芝詩
 飯田美砂子 実朝のうた
 矢追貞子 もみぢ
 谷口修三 仿金冬心筆意隸書
 江川青漣 杜甫の詩
 斉藤泥石 七言絶句
 阿部跳龍 古詩

阿部紅雪 寒山詩
 野口とく子 李白詩
 神藤松代 唐詩選 秋興(杜甫)
 内田 昇 陸勝宅秋雨中探韻同前
 佐藤秋泉 沈佺期詩
 渋谷セツエ 清明宴司勳劉郎中別業
 小山カヨ子 奉和晦日華昆明池應制
 鈴木天鳴 唐詩 余抗醉歌贈吳山人
 鈴木静耕 杜甫詩
 若林富美子 唐詩
 関口美鶴 李白詩
 野頭莊雲 載復古詩
 岩崎勝清 唐詩
 嘉島宏子 陶淵明の詩
 和氣清堂 李白詩
 高橋松道 漱石漢詩
 横田南畦 岑參詩
 大山青高 杜詩 同諸公登慈恩寺塔
 入澤八祥 宋之問詩
 長島正恵 会津八一の歌
 小川如泉 梁武帝詩
 中村晚雲 李頎の詩
 田中まり子 孟浩然詩
 中村蒼汀 張九齡詩
 瀬戸華逕 王維詩
 篠原圭子 賈賈王詩
 斉藤杏花 張說詩
 立神侯子 張九齡詩
 荒井寿逕 杜甫詩
 松橋秋塘 徒然草137段
 松岡梅影 和歌十四首
 木戸梢光 和泉式部歌集より
 黒田香影 百人一首
 郷治春彩 百人一首
 吉川蕉雨 和泉式部集切
 山辺静塘 賤の小田巻
 豊崎ふみ子 かな百人一首より
 高橋蘭徑 百人一首

明石 蕙 州 志貴皇子の歌一首
 小 澤 蕙 芳 与謝野鉄幹の歌
 横 山 蕙 静 仏足石歌一首
 松 田 松 逕 和歌一首橘曙覧
 伊賀田敦子 万葉抄
 弦 間 秀 僊 万葉抄
 成 瀬 映 芳 臨針切
 脇 本 晃 華 伊藤左千夫の歌他
 秋 山 尚 悦 万葉集の歌
 青 蔭 清 節 淡爾
 金 子 祥 山 庚信詩
 増田八重子 和泉式部続集より
 泉 昭 子 秋萩帖
 河 村 康 子 古今集
 北 村 玉 苑 赤彦の歌
 飯 田 夜 想 月の夜
 浅 野 信 子 みちのく
 青 木 湘 堂 陶淵明真子
 稲 垣 皐 人 晋祠銘
 宮 坂 詩 有 王維詩
 八 島 幽 月 良寛詩
 三津木芝影 王敷之
 菅 原 秋 峰 漢詩
 鴨 田 茜 竹 王鐸
 山 本 花 馨 唐詩
 関 春 宵 寒山詩
 三 上 光 雲 石川頌
 川 越 秋 馨 張璪図異石詩
 原 田 義 鳳 唐張旭の詩

〈写真〉

新 井 利 行 白の幻影
 平 綿 良 則 存念一修那羅の石神
 会 田 貞 夫 シルクロード横浜(舞踏会)
 〃 〃 (三国志)
 〃 〃 (横浜出港)
 大 平 健 治 精霊流し(三戸浜)
 鶴 殿 賢 一 郎 獅子舞の少女
 三 鍋 正 男 「湯治場」<sup>山形県
肘折温泉</sup>
 大 島 清 秀 5.26(中部地震)
 加 藤 種 雄 蜂の巣づくり
 越 川 敏 子 朝の祈り
 沼 田 清 懐古忠臣蔵
 唐 戸 弘 邦 無名峰
 山 崎 廣 大御神火拝焼
(だいおんべやき)
 平 登 美 春 華美
 横 山 保 光 もだえ
 松 本 癸 一 染物職人
 長 岐 通 正 黎明の岳
 遠 藤 佳 規 風の息
 三 垣 国 広 夕映えの七里ヶ浜
 増 田 智 生 自然の営み(コアジサシ)
 宮 崎 二 三 男 まんだら堂への道
 河 合 勝 平 航空ショー
 中 西 栄 造 揺れる心
 露 木 修 一 朝焼けと釣人
 相 馬 彰 豊年音頭
 福 井 清 見物の父子(彫刻の森)
 立 川 昭 彦 黄昏の干潟
 織田沢美知子 出発前のひととき
(中国・天池にて)
 大 関 と し 猫とインコと私
 葛 西 清 悦 対決
 戸 塚 吉 久 女
 尾 崎 藤 明 ささやき
 堀 坂 和 夫 早朝練習
(台湾高雄市・憩の広場にて)
 内 田 幸 夫 晩秋
 井 上 隆 敏 祭りの日

古和口次男 ギリシャ・ボロス島の昼下がり
 斉 藤 太 郎 熱演
 清 水 啓 一 湯立獅子舞
 坂 倉 哲 皇大神宮の印象
 春 宮 寛 治 ドリーム
 菊地原俊二 商い
 望 月 勝 美 なかよし
 鈴 木 孝 義 氣
 山 口 順 正 南柯の夢
 男 谷 浩 一 夕暮の浜
 原 島 敏 彦 秋山・ゆるる・^{うさぎ}光陽
 梶 渚 舟唄
 河 合 勝 衛 花散る頃
 飛 田 利 和 ファンタジックストーリー
 松 江 民 雄 青春時代
 松 永 清 男 晩秋の駒ヶ岳(箱根)
 金 子 仲 司 Yokosuka
Shinjuku
若 月 正 重 寸光の海
 萩 原 新 八 聖地光印(シナイ山朝焼)
 〃 〃 (水流れるワジ)
 〃 〃 (夕映えのギベオン)
 望 月 従 道 高原晩夏
 勝 俣 晃 男 翔
 〃 柚出
 堀 川 健 次 湖畔
 竹 内 光 真 土の唄(戸塚区下飯田)
 斎 藤 和 年 店先
 浅 見 明 博 海の鳥
 わた辺きょうこ 全盲の浩ちゃん
 林 勇 微風

■ 審査経過

〈工芸〉

第19回神奈川県美術展第2部(工芸・書・写真)の工芸部門審査は、昭和58年11月29日の10時から16時にわたって行われ、今回は165名による214点の応募作品の中から84名による84点が入選した。これを前年度の展覧会と比較すると、応募点数で38点減、応募者数で22名減、入選が一名一点制としているので13点が昨年より少ない。

審査に立会った所感として言えることは、確かに昨年より全体的に見て低調であり、ずば抜けて瞠目するものがなかったのは非常に残念でならなかった。ただし、かつてはこれが美術かと疑うような単なる趣味的なものや、或いは客観性の全くない独善的なもの、さては感覚の面で多分に甘く、しかも誰にでも容易に出来ると思われるような手芸的なものの出品がかなりの数応募されていたことを考えると、応募出品の美術レベルと、出品作家の美術家意識の向上は年と共に高まりつつあることは認められる。

特に私が言いたいことは、それがクラフトとして使うという機能を果たし、かつ装飾的な目的から技巧を入念に施しても、それが感覚的に今日という時代感覚にそぐわないものであっては、この展覧会に出品しても意味がないのである。現代の工芸作品の中には、使うことの目的から脱離して専ら眺めてもらうことを主願とするものも多いが、これとでも、古い過去の時代の様式や感覚を借りたようなものであってはならず、あくまでも20世紀末の時代でなければ出来ないような斬新なものが、しかも自分の独創によって創り出されていなければならないのである。つまり、技術よりもむしろ現代の時代感覚を如何に把握して、それを夫々の工芸分野で応募者諸氏がどのように表現しているかを、われわれは厳正に見極めながら審査したのである。そして84点の入選作の中から下記11名の作家の作品が夫々の賞を受賞した。

〔準大賞〕野口厚作「天焼」(漆工) 横浜市磯子区上町。〔特選〕野中春甫作「青白磁大鉢」(陶磁) 横浜市緑区寺家町。〔美術奨学会賞〕黒沢伸子作「秋の野に」(染織) 横浜市神奈川区入江。内田悦代作「吐息」(染織) 横浜市旭区上白根。中野幸男作「渦潮」(陶磁) 足柄下郡湯ヶ原町土肥。澤井幸男作「練上壺」(陶磁) 中郡二宮町川勾。関口洋子作「遊離そして集結Ⅱ」(金工) 横浜市港北区新吉田町。〔特別奨励賞〕山口和子作「タクラマカン狂詩曲」(漆工) 横浜市鶴見区寺谷。菅原恵子作「鎌倉彫茶箱」(漆工) 大和市つきみ野。島田幸一作「青瓷大鉢」(陶磁) 静岡県島田市。清国津美作「一閑文様大平盆」(漆工) 横浜市磯子区洋光台。

吉田耕三

●審査員 赤地友哉・浅野陽・各務鑑三・後藤俊太郎・近藤育世・
佐藤靖房・菅間ゆみい・田島比呂子・長谷部満彦・
吉田耕三

●搬入点数 214点(164人) ●入選点数 84点(84人)

＜書＞

書部門に於てはここ数年増加の一途をたどり、本年も昨年に増して約30点の増加を見、公募総数283点となった。しかもその内容に於ても一段と向上をみていることは誠に慶賀の至りである。

特に本展は従来からして他府県と比較しても決して遜色のないハイレベルではあるが、今回の特徴は、公募作品全体の実力が均一化されてきたことである。従って入落の境を何処へ置くか、何処で切るかが審査員の苦慮したところであり、結果的には去年より入選率がやや高くなったけれども、これは決して数字的に見て甘くなったわけではなく、むしろその内容より見るならば、入選の厳しさが窺えた。

大賞となった茶木静谷氏の「竹聲松影」の一行ものは、形の取り難い字であるが、よく重厚な線を遠心的な方向でなく、内へ締めながら纏め上げた傑作で、満場一致で推挙されたものである。大賞こそ逸したが、同氏と大賞候補に出た高崎隼嵩氏は、文人的傾向を狙いながらも、その線の複雑性を以て作品的表現をもりたてた良作であった。

ただ今後希望することは出品層がやや大都市中心の傾向にあるが、これが県下各地域全般に亘ることが望ましい。

殿村藍田

- 審査員 池上鶴洋・岩澤蕙堂・大島崑山・斉藤丹鶴・重田翠村・
菅原寿雄・仙場右羊・殿村藍田
●搬入点数 283点(283人) ●入選点数 189点(189人)

＜写真＞

今回は、入賞入選10回のベテランをはじめ多くの古豪が、落選するハブニングがあった。これは底辺のレベルがぐっと上がってきたことで、ベテランといえども油断のできない時代になってきた。三部門の準大賞に輝いた片岡順一作「爆音直下の街」は、ジェット機写真の作家として定評のある彼の、会心の作品である。従来は、ジェット機を超望遠で捉え、その造形の面白さでみせているものが多かった。今回の厚木地区の住民に与える騒音公害のすさまじさの表現は、圧巻であった。傑作である。県議会議長賞の山下昭雄作「湘南物語」は、夏の湘南海岸の賑いの中に、最近とみに欧米風にスマートになった光景を、よく写している。バイクの二人の若者の姿態は、近代的な湘南風俗をシンボライズして描いている。カラーのソフト調が抜群にいい。

川久保欽司作「十勝川秋あじ漁」は、鮭の大漁のすさまじさを、ダイナミックに見せている。こうした状況を芸術化するの、写真独特のものだ。写真は、いかに臨場感を表現するかがよくわかる。川口弘純作「出番待ち」は、邦楽の芸人たちの控室の情景が、格調たかく描写された。このしっとりとした情景描写は素晴らしい。以上4点は、甲乙をつけがたい作品であった。木村杏平作「夢想花」は、小品ではあるが、作者独自の内面心情を写した女人像で、凝った構成でうまい。小室宏作「新興都市」は、失われ行く田園に対する郷愁感がにじみでている。風刺がきいている。坂場孝作「雨のパレード」は、洒落たエスプリのある抽象風作品で、雨だれの美しい情感あり、詩情もでた。佐々木孝義作「湘南海岸」は、見せかたのうまさである。湘南海岸のあやしい雰囲気醸しだしている。自分の世界の発見が成功であった。

中村信作「鎌倉の神楽師」は、非人面行列は今まで数多く出品されたが、面をとった神楽師の素顔を対比させた組み方は新鮮だ。伝統のある祭の神楽師の顔は、さすがに貴禄があって効果的だった。直井三男作「深川水かけ祭の日」は、水を浴びながら駆け廻っている子供が、ユーモラスであった。手塚侑江作「老翁」は、飄逸な味がある。ポートレートは、人物の内面感情を写さなければならない。千屋栄市作「彼岸の頃」は、墓参風景がよく写されている。今後は詩情をいれる工夫を考えられたい。村上昭子作「裏通り」は、旅情にひかれた裏町のシーンに、作者の情感がよくでている。今井稔作「西伊豆の春」は、童謡の世界を花と子供で創りあげた。わらべ歌がきこえてくるようだ。

奥村泰宏

- 審査員 五十嵐英寿・奥村泰宏・岸哲男・常盤刀洋子・
浜口タカシ
●搬入点数 304点(142人) ●入選点数 141点(75人)

■ 大賞受賞者

第1回	40年度	大森運夫「九十九里」《日本画》	第18回	57年度	小泉正彦「冬の木」《洋画》
第2回	41年度	廣瀬義男「作品Ⅰ」《洋画》	第18回	57年度	井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》
第3回	42年度	垣内治雄「坐る」《彫刻》	第19回	58年度	井上 麦「土の系譜」《彫刻》
第4回	43年度	川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》	第19回	58年度	茶木静谷「竹聲松影」《書》
第5回	44年度	山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》			
第6回	45年度	伊藤 彬「天涯巡礼」《日本画》			
第6回	45年度	大久保利園「Straw」《工芸》			
第6回	45年度	西川万象「廬子諒詩」《書》			
第6回	45年度	加賀谷武男			
		「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》			
第7回	46年度	中西新太郎「落日」《洋画》			
第7回	46年度	島津碧嵩「寒山詩」《書》			
第7回	46年度	大谷正夫			
		「師ミス・ザンダー（フェリス女学院）」《写真》			
第8回	47年度	佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》			
第8回	47年度	林 良達「騎士」《工芸》			
第9回	48年度	河原 明「蜻蛉」《彫刻》			
第9回	48年度	石川充宏「Girl in chair」《工芸》			
第10回	49年度	大山 鎮「語り」《日本画》			
第11回	50年度	鎌田恵子「Lost my way」《工芸》			
第12回	51年度	泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》			
第13回	52年度	井上 麦「黒の女-77」《彫刻》			
第14回	53年度	坂田一之「MIRROR」《立体造形》			
第15回	54年度	前本利彦「暗い部屋Ⅰ・Ⅱ」《日本画》			
第15回	54年度	川口流坡「菅原道真詩」《書》			
第16回	55年度	和久井Who「HANGING」《立体造形》			
第16回	55年度	市原欣一「ふるさと」《写真》			
第17回	56年度	坂井彰夫「SEISHŌ」《彫刻》			
第17回	56年度	高木参平「BODY」《工芸》			

■ 第19回神奈川県美術展委員会組織

● 顧問

小 倉 遊 亀
中 島 清 之
山 本 丘 人
小 山 敬 三
斎 藤 義 重
圓 鋸 勝 三
高 田 博 厚
赤 地 友 哉
各 務 鑛 三
蓮 田 脩 吾 郎
殿 村 藍 田
比 田 井 南 谷

● 委員会委員

委員長
上 野 豊

副委員長
李 家 正 基

神 戸 由 雄
菅 原 寿 雄
匠 秀 夫
土 屋 利 保
三 上 次 男
吉 田 耕 三
弦 田 平 八 郎
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 壽 一
井 上 信 道
斎 藤 義 重
各 務 鑛 三
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏

● 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

井 上 信 道
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 清
斎 藤 義 重
匠 秀 夫
弦 田 平 八 郎
針 生 一 郎
三 上 次 男
柳 生 不 二 雄

〈工芸・書・写真部門〉

五十嵐 英 寿
奥 村 泰 宏
各 務 鑛 三
菅 原 寿 雄
殿 村 藍 田
吉 田 耕 三

● 審査員

〈日本画〉

片岡球子
加藤東一
工藤甲人
弦田平八郎

〈洋画〉

国領経郎
匠秀夫
宮崎進
横地康國
渡辺恂三
渡辺豊重

〈版画〉

斉藤清
斉藤寿一
島州一
馬場精男
柳生不二雄

〈彫刻〉

井上信道
小島弘
松田喜三郎
三上次男

〈立体造形〉

秋田由利
柏原えつとむ
針生一郎
斉藤義重

〈工芸〉

赤地友哉
浅野陽
各務鑛三
後藤俊太郎
近藤育世
佐藤靖房
菅間ゆみい
田島比呂子
長谷部満彦
吉田耕三

〈書〉

池上鶴洋
岩澤蕙堂
大島崑山
斉藤丹鶴
重田翠村
菅原寿雄
仙場右羊
殿村藍田

〈写真〉

五十嵐英寿
奥村泰宏
岸哲男
常盤刀洋子
浜口タカシ

● 実行委員

〈日本画〉

浅見信夫
大山鎮
能島和明

〈洋画〉

阿部和美
大里光春
阪本文男
白鳥三郎
鈴木雪子
田口弘勝
吉崎道治

〈版画〉

磯見輝夫
柄沢斉
浜西勝則

〈彫刻〉

垣内治雄
河原明
渋谷武美
陶山定人

〈立体造形〉

倉重光則
鈴木明
中島けいきょう

〈工芸〉

赤堀郁彦
国行道子
坂井輝夫
篠和子
鐸木能子
永山登志子
林亘
尾留川忠
松井三郎

〈書〉

伊東撫剣
岡田扇香
丹羽蒼処
船本芳雲
松本利一
吉田蘭処

〈写真〉

鈴木健夫
鈴木登美太郎
高橋勤
中島倍三
野沢喜七
平本昌義
吉田健吉郎

ごあんない





箱根美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）
 開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
 入館料＝大人500円 高・大学生300円
 小・中学生200円 団体割引は20名以上
 住所＝神奈川県箱根町強羅1300 TEL (0460) 2-2623

MOA美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）
 開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
 入館料＝大人1,000円 高・大学生700円
 小・中学生500円 団体割引は20名以上
 住所＝熱海市桃山町26-2 TEL (0557) 81-5785





彫刻の森美術館 (休館日なし)

箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車徒歩2分

神奈川県足柄下郡箱根町二の平 TEL 0460-2-1161

ギャラリーの
ごあんない

絵画・彫刻

Le Galerie des Beaux-arts

せんたあ画廊

〒231 横浜市中区真砂町 3 - 33
関内駅前横浜センタービル 4 階
電話 045(651)1431(代)・045(662)2937(直)

企画及び貸画廊

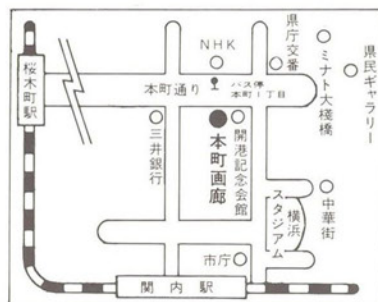
壁面31m150号可

本町画廊

横浜市中区本町 1 丁目 7 番地

〒231 バス停 本町 1 丁目下車 東ビル 1 F

☎045-212-2254



開港記念会館・県庁交番隣



つうりすとギャラリー

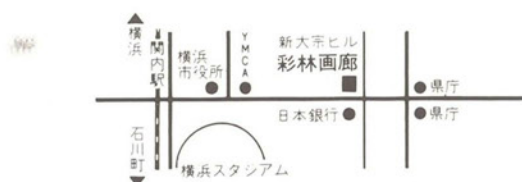
横浜市中区港町 2-9 関内駅前第2ビル

TEL. 045-662-2504

現代絵画・版画



Sairin Gallery



〒231 横浜市中区弁天通1-10新大宗弁天通ビル8F

ガエターノ・ボンバ

OY TIZ (莫)

エッチング



版 画

コラージュ

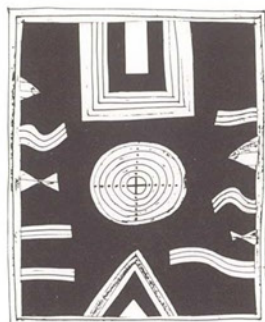


くれせんと美術店

横浜市中区弁天通1-19 TEL 201-8850

ヨコハマ画廊組合加盟

絵と
陶芸



彫 刻



絵



生きた、イメージ、365日。

昭和59年秋！
新しい街に生まれかわります。



ダイヤモンド地下街正面入口完成予想図



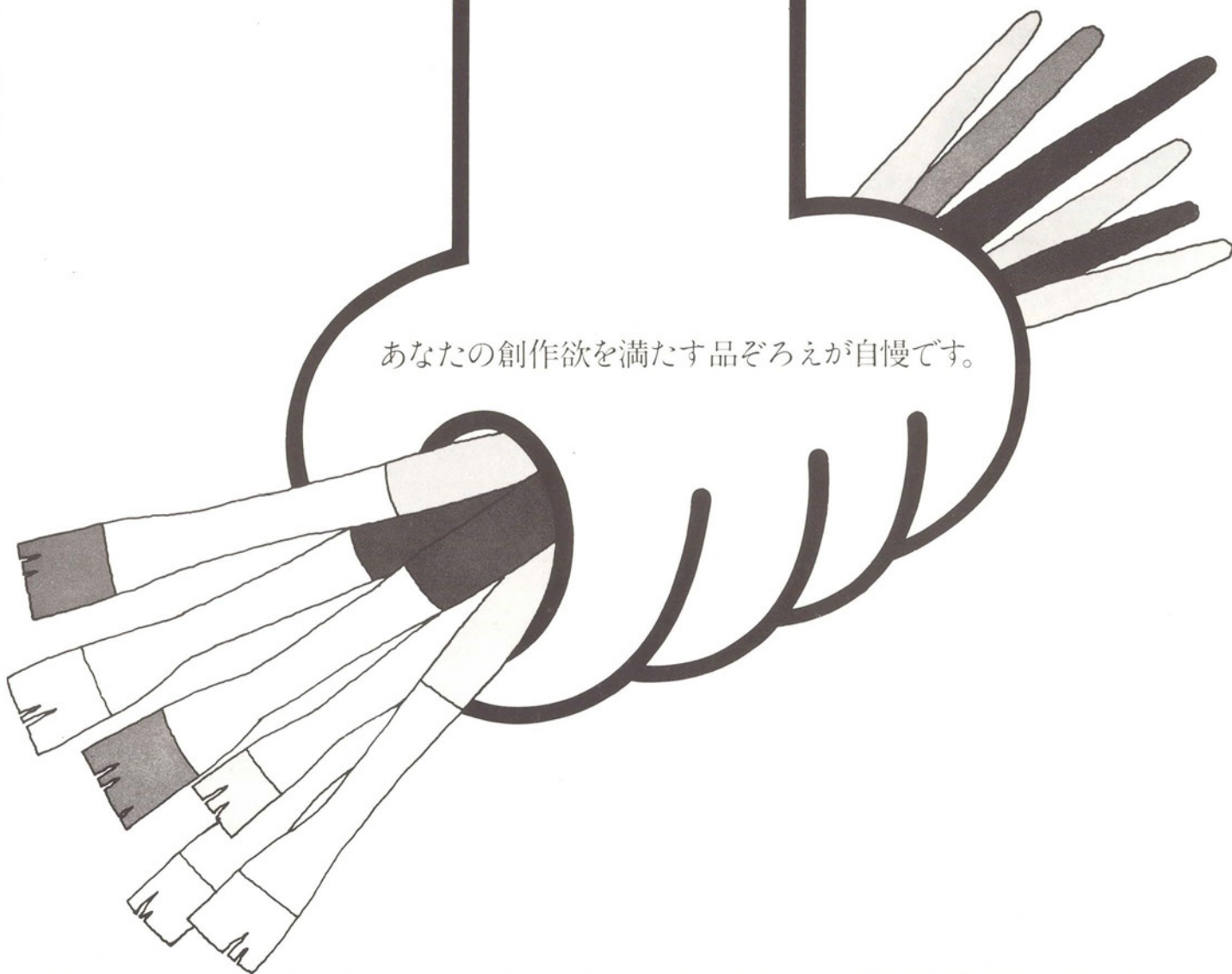
横浜駅西口
ダイヤモンド地下街

〒220 横浜市西区北幸一丁目1番8号
TEL (代) 045 (311) 1221

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル4F TEL.045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗

○ サクラカラープリント



信頼のおける品質を
迅速におとどけする

プロ用カラープリント
アマチュア用カラープリント

株式会社 京浜サクラカラー

横浜市金沢区福浦2-4-13 ☎ 045 (701) 2121

サクラカラーII

N NINA RICCI

ニナリッチ ブティック

■ 本館3階



横浜 **松坂屋**

おしゃれなレンガの散歩道

イセザキ・モール

電話 大代表261-2121

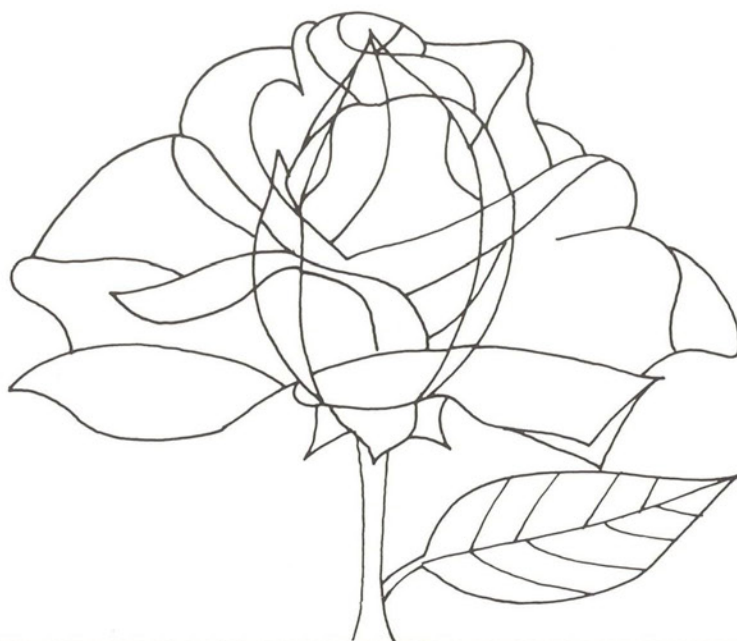
国鉄・地下鉄 関内駅

京浜急行—日ノ出町

エレガンスを永遠のテーマに
大人のファッションを創造しつづ
けるパリのニナリッチ
その繊細で美しいシルエットで
世界中の女性を魅了しています。
パリのブティックの名門——
ニナリッチ。



財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。



県下随一のプロフェッショナルスペース、

 **有隣堂**

画材/製図デザイン用品/書道用品コーナー

ユーリンファボリ 横浜・馬車道 TEL.(045)662-1231

藤沢店 藤沢駅南口名店ビル6階 TEL.(0466)26-1411

ルミネ有隣堂 横浜駅東口ルミネ5F TEL.(045)453-0811

厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ 書道用品のみ取り扱っております。

横浜馬車道・ユーリンファボリ7階ギャラリー 地下鉄関内駅馬車道口下車1分・国鉄関内駅北口下車3分
10:30 AM ~ 7:30 PM TEL.(045)662-1231

— 搬入・出代行 ■ 貸額縁 —

各公募展・グループ展・個展，地方発送承ります



アートサービス

TEL.(045)715-6444

有限会社 アートサービス / 〒232 横浜市南区大岡1-10-9 高橋ビル1階

(営業時間)

火曜～金曜 (AM10:00～PM6:00)
土曜・日曜 (AM10:00～PM1:00)
月曜定休日 (受付PM1:00まで)



ART SERVICE INC.
1-10-9 ŌKA-CHO MINAMI-KU
YOKOHAMA-CITY JAPAN
TEL (045)-715-6444



搬入・手続代行・搬出

美術館
ギャラリー
etc.

おやくそくの日

配達
アート
サービス

アトリエ

(早い返送、気持ち良いサービス)

- 予約受付
- ✧ 作品搬入出運搬及び手続代行
 - ✧ 貸額縁(公募展用本額縁)
 - ✧ 地方出品荷受、発送業務
 - ✧ 画集用写真ファイル

敬 具

ギャラリー・クラマール

“高田 博厚 作品展”

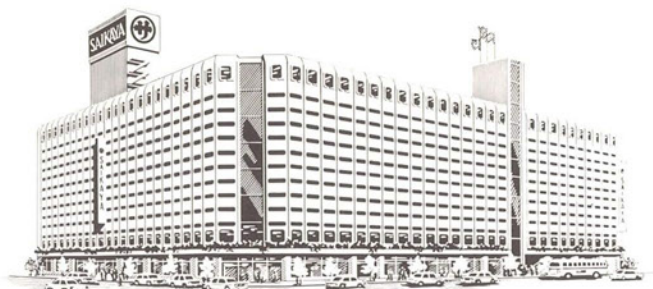
期間：1984年2月1日～2月29日
営業：平日 A.M10時～P.M7時
日曜・祭日 定休



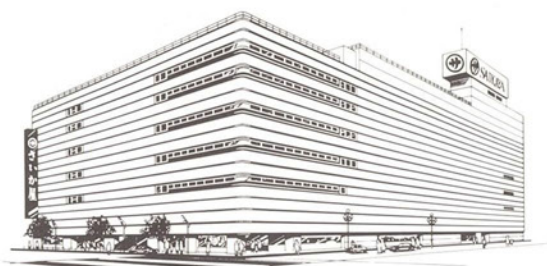
ギャラリー・クラマール

〒104 東京都港区南青山2-29-9 南青山リハイム104号
☎ 03-470-9791(代)

よい品にまごころ そえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 ☎044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



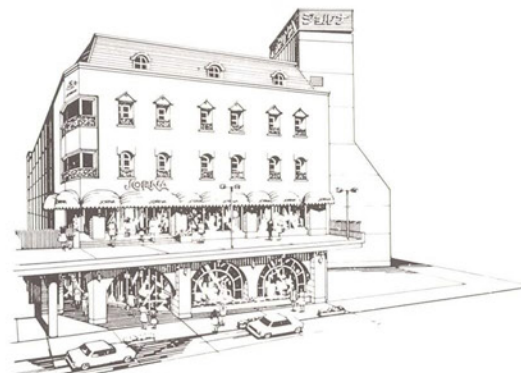
●藤沢さいか屋 ☎0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



三越グループ
藤 沢
さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジオルナ



●町田ジオルナ ☎0427・23・2531
〒194 町田市原町田6-6-14

MACHIDA
JORNA

第2・3水曜定休

Rosen~~X~~thal
studio-linie

暮らしに芸術家の心を。「ローゼンタール」



ローゼンタール・西ドイツで生まれたテーブルウェアのビッグブランドです。

「暮らしに芸術家の心を」をモットーに、常に世界一流の作家を起用。

その美しい器の数々は、日本では高島屋だけでお求めいただけます。

 **Takashimaya** YOKOHAMA

ART IS HEART

♥ うまさのちがいに注目——あなたのハートを印刷します

●グラフィックのトータルプランナー



株式会社 **ガリバー**

(本 社) 〒223 横浜市港北区新吉田町2933 ☎045(541)1341(代)
(編島営業所) 〒223 横浜市港北区編島東4-1-10 ☎045(531)4901(代)



発行 神奈川県美術展委員会
デザイン 長嶋洋一
撮影 熊代志津夫
制作 ガリバー

